

アセンション BOOK17

宇宙の12神殿1 2015年4月

# 天の川銀河の12神殿2 古代レムリア&アガルタの神殿



## 古代レムリア&アガルタの神殿 目次

- 第1章 アンドロメダ座に残るレムリア人と12神殿
- 第2章 地球と星々をつなぐ神殿と結晶
- 第3章 アトランティスの乙姫族と森羅族
- 第4章 古代レムリアの12神殿の次元移動
- 第5章 現代によみがえるレムリアの12の神殿
- 第6章 アガルタ帝国の入り口 アフリカの神龍
- 第7章 甦るアガルタの種族と神殿
- 宇宙で活躍する創造主の段階

作者 瀬戸武志&宇宙の光

アセンションブック <https://www.k-suai.com/>

宇宙の光公式HP <http://hikari1.com/>

アセンション評議会 <http://s-sun1.com>

アメブロ 光の世界へ <http://ameblo.jp/e-stone1/>

Eメール TAKESHI [yume34@k-suai.com](mailto:yume34@k-suai.com)

イラスト えんじえる (佐藤弘之)

アメブロ <http://ameblo.jp/angel-art2010/>

# 第1章 アンドロメダ座に残るレムリア人と12神殿

## PART1 12神殿の復活を願う黄金のマスター

私達が、メンバーとアチューメントを行っている時、彼が不思議なマスターからの訪問を最近受けている事がわかりました。

私達が、そのマスターを呼び出すと、彼は黄金色の鎧を着た威厳のある騎士かマスターのように見えました。

彼は、自分自身の事を、かつて古代レムリア時代に、この宇宙に存在した12神殿を守っていた存在である事を伝えてきました。

それは、地球の12神殿と天の川銀河の12星座にある神殿が一つにつながれる事で、地球と宇宙に素晴らしい調和をもたらす役目をする神殿だったようです。

そのマスターは、私達にこのように伝えました。

「天の川銀河には地球と関係が深い12の星座（星）があり、そこに特別な神殿が存在していました。

その神殿では、12星座の代表者達が祈りを捧げ、大切な女神を守護する働きを持っていたのです。

この女神は、宇宙と交信して地球と自分達の星を守る大切な役目を持っていました。

しかしこの大切な女神は、12神殿が崩壊するとともに、多くの神官達と共に、闇に消されどこかにとじこめられたままなのです。

しかもこれらの神殿が崩壊する原因となったのは、地球のレムリア文明とアトランティス文明の争いによって、地球の12神殿を保っていた多くの古代文明が崩壊したためでした。

地球にあった12神殿が消滅してしまい、地球の多くのネガティブなエネルギーが一気に、他の星座に流れ込んでしまい、その影響で「天の川銀河の12神殿」も崩壊してしまったのです。

この古代に滅んだ地球の12神殿を復活させ、一つ一つの神殿に神官達が戻る事で、地球は再び調和のある世界へと向かっていきます。

そして、地球と共に滅んだ「天の川銀河の12神殿」も復興させる事が出来れば、「天の川銀河の12神殿」と地球の12神殿が新たな関係を築く事ができるようになるのです。

そしてこれらの星と神殿からの光を受け取る事で地球のエネルギーは更に安定し、新たな進化を行う事ができるのです。」

私は突然のマスターの来訪と彼のメッセージに大変驚かされました。

そして私は、「天の川銀河の12神殿」がどの星座にあるのか尋ねました。

「12神殿のある星座は、さそり座、おうし座、ふたご座、白鳥座、しし座、大熊座、わし座、オリオン座、水瓶座、ケンタウルス座、アンドロメダ座、おとめ座などです。

ほとんどの星座がもうすでに皆さんと関わりが深い星座たちです。」

私達は、この黄金の鎧をまとったマスターの言葉を不思議に思いつつ聞いていたのですが、マスターは一生懸命に説明してくれます。

アチューメントが終ってからも、黄金のマスターはメッセージを送ってきました。

「天の川銀河の12神殿」は、先ほどお伝えした各星座にひとつずつ神殿がありましたが、さらにもうひとつの神殿がペガサス座にありました。

これらの神殿は各星座から選ばれたマスター達が神官達を助け自分達の神殿を守護していました。

ペガサスの神殿のマスターは、12人のマスターの長であり、まとめ役でもありました。

ペガサスの神殿には12星座の最高の神官でもある女神が住んでいました。

ペガサスのマスターは、女神の側近で常にボディガードの役目をしていたのです。

12神殿のマスター達も、自分達の神殿とペガサス座の女神を守るために働いていました。

「天の川銀河の12神殿」は、地球の12神殿とも非常に深い関係があり、地球の神官達と私達は協力してお互いの神殿を守っていました。

しかし、地球の古代文明であるレムリアやアトランティスの崩壊した時、地球から流れ込んできたエネルギーの影響をうけて、神殿を守っていたバリアが崩れてしまいました。

守護の力が弱くなった12神殿へ、暗黒星雲からやってきた闇の使者達が侵入してきたのです。

私達は必死に応戦したのですが、最後は星もろとも暗黒星雲へと消し去られました。

多くの民が亡くなり、女神も連れ去られ、彼らがどうなったのかわかりません。

どうか12神殿の神官やマスター達と女神を復活させてください。

彼らが蘇り「天の川銀河の12神殿」が復活する事により、地球はまたかつてのような安定とさらなる進化を遂げるでしょう。」

真剣な表情で私達に語ってくるマスターは、私達に最後の希望を託しているようにも思えました。

## PART2 アンドロメダ座に移住してきた種族達

5月18日は久しぶりに朝のクラスでの星のツアーです。

この日はアンドロメダ座に行く事にしました。

私達は、まずアンドロメダ座の入口であるアルマク星に入ります。

ここはマーメイド達がいる場所で、森を抜けたところにある泉にマーメイドの神殿があり、そこで女性性の癒しと目覚めを行っています。

私達は、しばらくここで自分達を癒やした後、アンドロメダ座の中心ともいえるミラク星に入ります。

ミラク星は、女神イシスの宇宙の図書館があります。

まるで天井まで本棚に埋め尽くされたような場所ですが、見方によってはコンピュータが設置された最新のデータバンクのようにも見えます。

これらの世界は、私達の意識の世界を反映して見せてくれるので、その人の意識のあり方によってどのようにも変化していきます。

私がこのアンドロメダ座に来たのには、もう一つ理由があります。

以前、このミラク星に来たときは、イシスの図書館は山の高台の所に立っていて、そこから下を見下ろすと近代都市のような世界が見えていたのです。

私達は、そこに入ろうとしたのですが、前回は入れてもらえませんでした。

今回は、その都市を訪ねてみようと思ったのです。

イシスの図書館から外に出ると、確かに平地の部分に大きな透明のドームで覆われた都市が見えます。

私達は、シェンロンにのってその場所へと向かいました。

都市の入口に着くと、3人のマスター達が出迎えてくれました。

周りにはペガサスや様々な姿をした宇宙人達が集まっています。

私は3人のマスターに挨拶を行うと、このアンドロメダ座の役割を尋ねました。

「このアンドロメダ座は、主に星々のバランスを調整してパワーアップさせます。星の中には元気な星もあれば、弱ってきた星もあります。

あまりにも元気があり過ぎる星は、小さい星や弱い星に対して深刻な影響を与えてしまいます。

その為に、私達は星と星のバランスを調整して問題が起きないようにしています。

またアンドロメダ座は、皆さんが体験されたようにマーメイド達も存在しており、女性性の働きが強い星座です。

そして水のエネルギーを使用して大きな癒しのエネルギーを作り出しています。

その癒しのエネルギーは、動物や生命を癒すだけでなく宇宙の星々や宇宙の様々な次元を癒し活性化する働きももっています。」

「偉大なるアンドロメダ座のマスターよ、本当にありがとうございます。

私もここにはとても素晴らしいエネルギーを感じますし、アンドロメダ座のエネルギーがはるか地球にまで届いている事も理解しています。

私はここにきて不思議に思っている事があるのですが、ここには、同じ一つの星とは思えないほどの様々な種族が存在しているようですが、それはどうしてですか。」

「TAKESHI さん、あなたもご存じのように、星々の間には、侵略行為をうけて壊滅する星や星の内部で争いが起こり、文明が滅びてしまった星があります。

また自然気象の急激な変化により、その星に住めなくなる事もあります。

その様な時、そこに住んでいた種族達を救うのも私達の役目です。

私達は、宇宙船を差し向けてできる限りの人々を救い、この星に移住してもらいます。

それは、その星や文明の素晴らしい叡智を継承するためです。」

「それでは、ここに住んでいる人達の星は壊滅して存在していないという事ですか。」と私は尋ねました。

「いえ、そうではありません。

確かに壊滅して人々が住めなくなった星もありますが、その後ほかの種族達によって再興されていった星もあります。

このミラク星はとても大きいので、多くの種族が自分達のスタイルを守って生活しています。

その為に、古代文明の遺跡のような建物もあるし、近代的な建物、皆さんから見ると未来都市のような場所もあります。

イシス神殿の向こうには、地球のシャンバラのような世界もありますよ。

この星にはいくつもの次元があり、同じ次元の中で生活している種族もあれば、他の種族と異なる次元で暮らしている種族もあります。

しかし皆さんアンドロメダ座に来る事で、心に愛を芽生えさせて楽しく暮らしています。」

確かに、私達が居る所からも古代ローマや古代エジプトのような世界が見えています。

「そういえば、地球からもレムリア文明の人やアトランティス文明の人達もこちらに来ていますよ。」

私は、その言葉に驚くと共に、これから行う「天の川銀河の12神殿」の大切なヒントが隠されている事を予感します。

私達は、マスターにお願いして、レムリアの種族のもとに連れていってもらいました。

### PART3 レムリアの生き残った種族と12神殿

私達はその場所につくと、とても長いひげを生やした長身の老人が、私達を歓迎してくれました。

そこには、近代的な建物もなくまるでモンゴルの遊牧民が住むゲルと呼ばれるような家に住んでいるようです。

まわりは美しい花々が咲きとても優雅で美しい世界が広がっています。

「皆さん、よくいらっしゃってくださった。

皆さんが地球から来られたという事を聞いて私達も大変うれしく思っております。

地球は、私達にとって大切な故郷であり母親のような存在なのじゃ。」

「偉大なるレムリアのマスターよ、私達も皆さんがこのアンドロメダ座で生き残っていてくださった事を大変うれしく思います。

私達も、皆レムリアの世界に生きていました。

そしてレムリアの偉大な叡智を継承し、再びその叡智を、現代の地球で花開かせようと思っ

ています。」

私達の言葉に、レムリアの長老は、喜びに言葉を詰まらせているようです。  
私は、長老に「天の川銀河の12神殿」とレムリアの関係を尋ねました。

「お、その「天の川銀河の12神殿」につながるレムリアの神殿こそが、レムリアの最大の叡智なのじゃ。

我々は、地球と宇宙のつながりをとても大切に思っておった。

そして、宇宙の光が地球に降り注ぐ事で、地球の命が輝き豊かになると信じておったのじゃ。  
そのために、天の川銀河の主要な星々と光をつなぐ神殿を持ち、多くの神官達が祈りをささげて、この地球を守っておった。

レムリアとアトランティス、そしてアガルタは、地球のために協力して、仲良く地球を守る仕事をしていたのだが・・・」

長老は、昔を懐かしむように目を伏せてため息をつきました。

「我々とアトランティスの人々は、本当はとても仲が良かったのじゃが、アトランティスの支配者が変わるにつれて、アトランティスの態度がどんどん変わってきて、我々とは仲が悪くなってしまった。

そして、大きな争いが起こりレムリアの12神殿は破壊されてしまったのじゃ。  
その事を考えると、我々は大きな絶望感を感じずにはいられない。

そして、レムリアの12の神殿が破壊される事で、その破壊的なエネルギーは、神殿の光の通路を通して大切な星々にまで伝わり、星々にあった空の神殿も崩壊する事となってしまった。

悲しい事じゃ。

まるで空から大きな雷が降り注ぐように、天の神殿が落ちていったのじゃ。」

長老の話によると、レムリアには、天の川銀河の12星座のエネルギーを受け止めるために12の神殿があり、星から送られてくるエネルギーによって、地球のエネルギーはさらに高められ調和を保つ事ができたようです。

そして、その星々から送られたエネルギーによって地球は素晴らしい種族を産みだし、素晴らしい文明を栄えさせる事ができたようです。



レムリアとアトランティス、そしてアガルタ帝国は、最初は仲良く協力して地球を支えていたのですが、アトランティスの人達が、次第に支配的になる事で、レムリアとの間に争いが起こり、その争いの中でレムリアは滅んでしまいました。

私達「宇宙の光」のメンバーはもともと、このレムリアの最後の時期に生きていました。そしてレムリアの叡智や神聖なるパワーを守るために「ドルフィン・アソシエーション」というグループを作り、レムリアの叡智とパワーを独自の方法で守ってきました。今の時代にその叡智とパワーを開くために、私達は再び生まれ変わってきたのです。スピリットレベルでは、私達もレムリアの12神殿と深い関わりを持っている事は間違いないでしょう。

「TAKESHI さん、そして皆さん、ここには、レムリアの12神殿をまねた神殿が建てられています。

もちろん、この神殿はかつてのレムリアの神殿のように星につながっているわけではないので機能はしていませんが、それでも12神殿の叡智は伝える事ができるでしょう」

私達は、長老と再訪を約束して、レムリアの種族の元を離れました。

#### PART4 アトランティスの種族と乙姫

私達は次に、アトランティスから移り住んできた種族を尋ねました。

アトランティスの種族の扉を開くとアトランティスの種族のマーメイド達があります。

そして不思議な事に亀を従えた乙姫様までいます。

私は乙姫様に挨拶をすると共に、私達のイメージするアトランティスとは少し異なっている事を伝えます。

乙姫様は、にこやかに笑って答えます。

「そうですね。

皆さんがイメージしているのはアトランティスの後期の頃の事ですね。

そのころは人間の種族がアトランティスを支配していたのでさまざまな問題が起こりました。アトランティスは、決して一つの文明ではなく、長い歴史の中で何度も生まれ変わってきました。

時には大きな地殻移動などの現象を伴って、全ての物が生まれ変わる時があれば、ただそこに生きる種族だけが変わるときもあります。

アトランティスはさまざまな種族によって成り立っています。

アトランティスの初期の頃は、アトランティスの文明は海の底にあり、私達の乙姫族とマーメイド達が仲良く暮らしていました。

皆さんが、ご存じの乙姫と浦島太郎の話は、その時代の象徴です。

私達は時折、地上の人々を迎え入れて交流を行っていました。

その時代は、レムリアは天の種族、アガルタは地の種族、そして私達は海の種族として、生活する領域を分けながら仲良く暮らしていました。

そして、レムリアにも宇宙とつながる12の神殿があるのと同じように、アトランティスにも12の神殿があり、異なるエネルギーを地球にもたらす役目をしていました。

最初、12神殿は、宇宙の模型として作られたのです。

そして、そのエネルギーが人々にどのような影響を与えるか研究された事で、天の川銀河の12神殿は、人々の能力や叡智を目覚めさせる事ができるようになったのです。

皆さんが12の神殿の復興のために活動を始められた事に、私達も深い喜びを持っています。私達の乙姫族もまだ地球に残っており、皆さんと共に活動する事をきっと願っている事でしょう。」

私達は、アトランティスの乙姫に別れを告げる事にしました。

乙姫の最後の言葉が、大変な意味を持っている事に気付いたのは、その2日後の事でした。

私達は、最後にアンドロメダ座のマスター達に尋ねました。

「皆さんは、もともとこのアンドロメダ座にいた人達ですか、もしかしたらアンドロメダ銀河から来られたのではないですか。」

「TAKESHI さん、もちろん私達はアンドロメダ銀河からやってきて、天の川銀河の発展と調和のために働いてきました。

そして皆さん達が話題にしている「天の川銀河の12神殿」も、アンドロメダ銀河から持ち込まれたシステムなのですよ。」

私は、その言葉で、この12神殿がどれほど大切なものであるかが理解できたような気がします。

私達の活動によって「天の川銀河の12神殿」が復活すれば、この天の川銀河にとっても大きな愛と調和をもたらす事ができるのです。

## 第2章 地球と星々をつなぐ神殿と結晶

### PART1 地球のエネルギーを生み出すコアの仕組み

私達は、前日の星のツアーで、古代のレムリアの時代に、レムリア文明、アトランティス文明、そしてアガルタ文明が、地球にとっては、天、海、地の3つの領域に分かれて地球に存在していた事を学びました。

そしてこの3つの文明のバランスを支えていたのが、地球のコアの中心である「ダイヤモンド・コア」と呼ばれる場所にある結晶体である事がわかりました。

メンバーと「シェンロン・ホーリーラブ」のアチューメントをおこなっている時、私達がシェンロンの最高次元にあるダイヤモンド・シェンロンのもとに行くと、シェンロンがついてきてくれと私達に言います。

私達は、ダイヤモンド・シェンロンに続いて、宇宙空間にダイブします。

するとダイヤモンド・シェンロンは次元をどんどん降下して地球のコアへと入っていきます。そしてコアの中でも、地球のエネルギーの循環の中心になっている「ダイヤモンド・コア」と呼んでいる場所に入ります。

そこにはマスターが待っていて、私達にダイヤモンド・コアと3つの文明をつなぐ結晶体の話をしてくれます。

「皆さんにこのダイヤモンド・コアの秘密をお知らせできる時が来た事を私達はとてもうれしく思います。

この事はまだ、地球の人々には知らされていない事なのですが、皆さんが12神殿の復興に関わってくださる事になったので、このダイヤモンド・コアの結晶も、間もなく動き始める事でしょう。

そのために、この結晶のシステムをよく理解しておいてください。」

マスターは地球と星々のつながりについて実に興味深い話をしてくれました。

「地球に起きた文明を支える力はすべてここから生まれてきます。

このダイヤモンド・コアは地球に生きるすべての生命と活動の元となるエネルギーを作り出す場所です。

それは、この地球が安定した活動を行うようになった時代から、常にそれらのエネルギーはコアから生み出され地上に送られています。

この地上では今まで様々な種族が生まれ、数えきれないほどの文明が生まれました。

また、地殻の変動によって新しく生まれた大陸もあれば、海の底に沈んだ大陸もあります。

それも全てこのコアのエネルギーの循環によって起こる事です。

このコアのエネルギーは衰える事も消失する事ありません。

地球の表面に住む皆さんにとっては、地殻の変動は地震や火山噴火などの自然災害を生みま

す。今まであった陸地がなくなったり、今までなかった陸地が海の中から現れてくる事は、皆さんの生死にかかわる重大事であり、皆さんの文明の存続にかかわる重要な事でもあります。

しかし地球のコアにしてみれば、それらの現象も、ただエネルギーの循環を行っているだけなのです。

地球は、自らのエネルギーの循環のために、自分の体の中にいくつものエネルギーの通り道を生み出しました。

皆さんが時折口にするレイラインや龍脈などもその一つです。

地球での活動を整えるために、地球はエネルギーの通り道を作りますが、最近では地表の環境の変化などによって、そのエネルギーの通り道に大きな歪みが生まれる事も起こり始めています。

しかし、たとえそれらのラインが歪みによって機能しなくなったとしても、雨がたくさん降れば、新たな川が生まれるように、新たなレイラインや龍脈が生まれてきます。

それは、地球が自分自身を守るために必要な出来事です。

また地球のエネルギーの循環はシェンロン達によって守られています。

シェンロンは、この宇宙の叡智ある創造主によって生み出されたエネルギーであり、エネルギーの創造と浄化、循環を司る存在です。

シェンロンは物理的でもありスピリチュアル的でもあります。

またシェンロンは集合意識の中に生きる時もありますが、個別の意志を持って生きる時もあります。

地球のコアや地殻を守り、地球のエネルギー共に生きるシェンロン達は、すべてこの地球の意識の場であるゴールド・コアやダイヤモンド・コアと深くつながっています。」

## PART2 地球の意識と星々の意識をつなぐ祈りの周波数

マスターは更に言葉を続けます。

「そして地球のコアのエネルギーには特殊なエネルギーが存在しています。それは、この地球という星としての意識が、他の星々とつながるためのエネルギーです。つまり地球にとって他の星々は、自分を生み出してくれた親であり、共に生きる兄弟姉妹のような存在なのです。

それらの星々と地球の意識がつながる事は、地球のエネルギーを活性化するためにも、また安定させるためにも必要な事です。

そのエネルギーがある事で、地球も愛に満ちあふれ豊かに進化していけるのです。」

マスターはさらに地球のために祈る意味についても教えてください。

「ただしここに一つの条件があります。

それは、地球の意識だけでは、他の星々の意識と一つにつながれないのです。地球の表面には数えきれないくらいの種族が住んでいますが、皆さんのように高次の文明を持つと、さまざまな周波数の電波や音、あるいは想念を発散させます。

そのエネルギーは重たい雲のように地球を取り囲むのです。

そうすると地球が持つ固有の周波数は乱されてしまい他の星にも届きませんし、他の星から送られてくる特別な周波数のエネルギーは、地球上に住む人々が出す粗雑な周波数にかき消されて地球の意識に届かなくなるのです。

地球に文明が発達する前の原始的な時代に、十分に届いていた星々のエネルギーが、その粗雑な周波数によって現在は届かなくなってしまったのです。

そのような状態の中で、この地球に他の星々のエネルギーをつなぎとめる役割をしていたのが、日巫女族やレムリア時代の12の神殿の神官や巫女達だったのです。

もちろん、それ以降もアボリジニーやアメリカインディアンなどのシャーマン達が、常に地球のために祈り、地球と他の星々をつなぐ働きをしていました。

彼らの純粋な祈りと想念が独自の周波数を形作りその周波数が地球と他の星々が交信するための特殊なチャンネルとなったのです。

現代では、皆さんのような方達が地球や地球に生きる生命達のために祈ってくださる事で、地球と他の星々がつながって、地球は光とエネルギーを得る事ができます。

とくに皆さんがとても次元の高い創造主や「神聖なる愛の女神」達とつながり、その光を送ってくださる事で、地球の意識はとても癒されます。

人類によって生み出された粗雑な周波数のエネルギーと想念が地表にもまた地殻の中にも満ちあふれていますが、それらの周波数がより高次の周波数に置き換わっていく事で、皆さんが言うところのネガティブなエネルギーが光に代わっていく事ができるのです。

かつてレムリアの12の神殿、そしてアトランティスやアガルタにも同じような神殿があり、そこで活躍する神官や巫女達がとても高次の周波数を出して祈る事により、地球は星々のエネルギーを受け止める事ができました。

そしてそのエネルギーは特殊なコード（通路）を通して、このダイヤモンド・コアにある結晶体に送られ、地球のために活用されていたのです。

結晶体からは、何本ものコード（通路）が伸び、それぞれの神殿のクリスタルとつながっていました。

全ての神殿には色や形は違えども、たくさんの水晶があります。

その中でも大型でパワフルな水晶達は、この地球のダイヤモンド・コアにつながるコードを持っており、コアからもエネルギーが送られてきます。

またクリスタルの周りで祈る事により、高次の周波数を生みだし、星々のエネルギーや愛のエネルギーをこのコアに送っているのです。

TAKESHIさんの部屋にもいくつもの巨大なクリスタルがありますね。

それらのクリスタルのいくつかは、このコアと直接つながるコードを持っています。

特にあたらしいマスターと出会う時や新たなステージが始まる時はとりわけ大きくて虹がたくさん出るクリスタルが送られてきますね。

それはクリスタルの中に、あなたが活躍するための能力やパワーを開くための情報が秘められていると同時に、このコアからの新たなパワーが込められているのです。

そして、新たな創造主や女神達の光を地球に降ろす時に、それらのクリスタルを通して、この地球のダイヤモンド・コアの結晶の中に、そのエネルギーが直接送り込まれていくのです。」

### PART3 地球のダイヤモンド・コアとアチューメント

私は、あまりにもスケールが大きな話に驚いていますが、私達が行っている活動の意味がしっかりと理解できました。

「それではマスター、私達が、創造主や女神達と深くつながるためにアチューメントを行っているのですが、これも地球にとっては意味がある事なのですね。」

「TAKESHI さん、もちろんです。

皆さんが行ってくれるアチューメントは、皆さんのためだけでなく、必ず地球と地球に生きる生命達の為の祈りが入ります。

皆さんが地球と地球に生きる生命のために祈る時、そのエネルギーは比喩物にならないくらい強くなります。

そして、とても高い周波数を生み出します。

その周波数が、地球に星々の光や創造主の光、愛の光を呼び込みののです。

皆さんは、皆さんが行っているアチューメントの本当の意味にまだ気づいていないのです。それはこの地球に、格別な光とパワーを与えて、地球が元気に生きる事をサポートしているのです。

たとえるならば、酸素不足で苦しんでいる人に新鮮な酸素を与えるようなものです。

皆さんの祈りとアチューメントはこの地球にとっては大きな救いとなっているのです。」

「それではマスター、ダイヤモンド・コアの結晶体のコードは、現在どうなっているのですか。」

私はマスターにたずねました。

「確かにレムリア時代には、レムリアだけでなくアトランティスやアガルタにもたくさんの神殿とクリスタルがあり、それが地球のコードとつながっていましたが、今はそのほとんどのコードが切れてしまっています。

皆さんのグループや各地のシャーマン達、一部の宗教家やスピリチュアルな活動を行っている人々、純粋な心で祈りを行っている人達の元に、コードはつながっていますが、その一本一本は決して大きくはありません。

しかしそのような人達から送られてくるエネルギーによって、地球は宇宙のエネルギーを吸収しているのです。



皆さんが、レムリアの12神殿のように、再びこの地球に、宇宙とつながる神殿を再構築してくださり、また天の川銀河の星々に存在する「天の川銀河の12神殿」が再興されたなら、この地球にも十分なだけの「星のエネルギー」が送られてくる事でしょう。」

「このダイヤモンド・コアの結晶体とはどのようなものなのですか。」私は、さらにマスターに尋ねます。

「このコアには特殊なエネルギーというか光があります。それが、アマ、マナ、サラ、などと呼ばれるエネルギーで、天からの「創造の3光線と」も呼ばれています。

これらの光線が、さまざまな組み合わせを作る事で多様な働きを行っているのです。現在、このコアと大地を支配するガイアとの間には深い関係があり、ガイアのハートの中にも同じような光線を持つ結晶が存在しています。

ガイアの子供達である皆さんは、ガイアをとおしてこのダイヤモンド・コアの結晶ともつながる事ができるでしょう。

そしてその事は、皆さんが12神殿を作る過程で行われていく事でしょう。」

#### PART4 神殿を再生させるスピリット達

私達は再びダイヤモンド・コアに招かれます。

マスターがやってきて、ダイヤモンド・コアに作ったエネルギー浄化システムの様子を見に来てくれと頼まれました。

このエネルギー浄化システムとは、前回メンバーとのアチューメントの中で、私達は地球のダイヤモンド・コアに呼ばれ、このダイヤモンド・コアでのエネルギーの浄化についての説明を聞いていたのですが、どうもこの地球のエネルギーの浄化システムが古いようで効率があまり良くありません。

そのために、地球の中にネガティブなエネルギーがたくさんたまってしまうのです。このエネルギーの浄化のシステムがもっときちんとしたものになれば、地球の中のネガティブなエネルギーは、もっと速やかに光に浄化されていくはずなのです。

私達は、このダイヤモンド・コアに、宇宙工学を専門にするマスター達を呼びました。私達のフェニックス号を作ってくれた鳳凰族、そして数々の宇宙船や宇宙の星々が動く仕組みを作るマスターAのグループ、そして魔法使いと私達のコロボックルのグループです。マスター達は、地球の浄化システムを見て回っていますが、かなり古びたシステムの様で全面的にリニューアルが必要なようです。

しばらくすると、それらの作業もすべて終了したようですので、私に見に来てくれと呼びに来たようです。

私達は、ダイヤモンド・コアに入ると、鳳凰族とマスターAのグループを呼んで最終チェックを行ってもらいます。

私達は、その間に、マスターと先ほどの話の続きをします。

「TAKESHIさん、先ほどこのダイヤモンド・コアの結晶体と各文明をつないでいたコードの話をしましたね、その続きを話しましょう。

かつてレムリア、アトランティスそしてアガルタの各神殿のクリスタルにつながっていた光のコードは、それらの神殿で行われた祈りのエネルギーを、この星のダイヤモンド・コアにつないでいました。

しかしそれぞれの文明が崩壊し、神殿が壊された後は、そのコードのエネルギーはブロックされてこの結晶体とのつながりはなくなってしまいました。

しかし、そのコードの記憶は人々のスピリットの中に残っているのです。

スピリットの働きが目覚めている人達の中で、かつて神官として神殿で働いていた人達は、そのコードの事を覚えています。

そして自分のスピリットや身近なクリスタルを通して、ダイヤモンド・コアの結晶と自分のコードを再度つなげなおす事ができるのです。

そしてそのコードが一定の数になる事で、しっかりとしたコードが構築され、そこが神殿の機能を果たす事になります。

皆さんは、現実の世界で神殿を持っているわけではなく、また同じ場所に存在しているわけではありませんが、共に祈る事によって、そこに目には見えない神殿が出現するのです。

そして、皆さんの手で「天の川銀河の12神殿」が再興されると、星々の光は皆さんのハートを通して、このダイヤモンド・コアのコードにつながり、地球の中心へと送られていくのです。

その時は、皆さんの体とスピリットが、神殿とクリスタルの代わりを果たすのです。

「天の川銀河の12神殿」にしても、その光を受け止める地球の神殿にしても、それを再生させるという事は、多くの人々のスピリットの中に眠っている記憶や叡智を目覚めさせる事となります。

この仕事は、多くの人達を目覚めによって生まれてくる力を一つにして行わなければなりません。

もちろんそのためには、天の川銀河の神殿で働いていた数多くの種族、そして地球で働いていた種族達を1つ1つ目覚めさせていかなければなりません。

それが先日お会いした愛の種族の一つである日巫女族なのです。

これらの神殿や光を生み出す仕事には多くの場合「愛の種族」が深く関与しています。

愛の種族は、神殿の特性やその仕事の内容によって、もっとも適切な種族を作り出す事もできるのです。

もちろん今でも、その種族達は、わずかながらこの地球に残っています。

そしてこの時代に、あなたの仲間として生まれてきているのです。

宇宙の光の活動を通して、それらの魂は目覚めてくる事でしょう。

そして自分のスピリットの役目に気づき、神殿の神官や巫女としての働きを果たす事でしょう。」

「神殿を再生するという事は、人々を目覚めさせるという事です。

TAKESHIさんを中心として、皆さんのスピリットが一つにつながっていきます。

皆さんが2年前に作った「レムリアの6神殿」は、皆さんの眠っているレムリアの意識を目覚めさせるものであり、レムリアの叡智や癒しなどの能力を高めるための個人的なレベルでの覚醒を目的としたものでした。

しかし今回の「天の川銀河の12神殿」は、個人の領域を超え、地球と全宇宙のつながりを作っていくためのものです。

それは宇宙レベルでの覚醒をこの世界にもたらす事でしょう。

古代レムリアの時代には、レムリアにもアトランティスにも、そしてアガルタにも神殿がありました。

それを天の神殿、海の神殿、地の神殿と大きく分け、それぞれの中にまたいくつもの神殿があったのです。

これからの時代は、皆さん自身が神殿となり、皆さん自身が星のエネルギーと深くつながって行く事となります。

そのために、過去の神殿とは異なる形の神殿となっていくでしょう。

## 第3章 アトランティスの乙姫族と森羅族

### PART1 原初のアトランティスの種族 乙姫族

18日の星のツアーから2日後、私達はかつてアトランティスの文明を支えていた乙姫様に会いに行く事にしました。

早速乙姫様が現れてメッセージを伝えてきます。

「私達乙姫族は、かつてアトランティスが海の中にあった時代に、アトランティス文明を作り上げてきた種族です。

アトランティスは、皆さんがよくご存じのアトランティス文明の前にもいくつかの異なる形の文明が存在していました。

後期のアトランティスは人間の種族が支配していましたが、最初の頃は、ポセイドン神の守護の元、私達のような海の種族が支配していましたので、アトランティスの文明は海の中にありました。

私達乙姫族は、海の生命を大切にす種族として海そのものを信仰し海の巫女として活躍していました。

そして、私達は女性性を大切にし、傷ついた女性性を癒し、女性のエネルギーをエンパワメントしていました。」

乙姫様は、そのように言うと、私達を海の底にある古代アトランティスの神殿へといざなってくれました。

しかし神殿は活気がなく、昔の幻影のような気がします。

海の底の神殿に着くと、乙姫様のほかにも数名の乙姫族が現れてくれましたが、皆さん元気がありません。

私は乙姫様の様子を気遣いながら尋ねます。

「乙姫様、皆さんが古代アトランティス文明の担い手であるという事は十分に理解できましたが、皆さん元気がないようですがいったいどうしたのですか。」

「TAKESHIさん、実は私達乙姫族は重大な危機に瀕しています。

私達、乙姫族とその仲間であるマーメイド達は、とても豊かな女性性を持って生きていました。

しかし、私達の種族は女性性だけで存在できるものではありません。

私達のパートナーとなる男性性のエネルギーも必要なのです。

乙姫と浦島太郎の説話が日本には残されていますが、あの話は私達の時代によく行われていた本当の話です。

私達は時々、地上にすむ人間族の男性と愛を分かち合う必要がありました。

そのために、亀達が地上に行って、選ばれた男性を私達の世界にいざなってくれました。

またそれ以降の時代には、美しいマーメイド達が月夜の晩に、人間の男性と恋に落ち、男性性のエネルギーを取り込み、私達の種族を維持し続けてきました。

しかしながら、現在地上に住む人類と私達のつながりは絶えてしまいました。

私達は自らの種族を維持する事が大変困難になってしまったのです。」

「皆さんの種族は、まだこの世界に残っているのですか。」

私は周りを見渡しながらか乙姫様に尋ねました。

「私達は、人間の種族との間にマーピープルというものを作りました。

マーピープルは、女性のマーメイドと男性マーマンに分かれて活躍してくれました。

マーピープルは、私達乙姫族と人間の間当たるような存在で、私達と人間の架け橋となってくれたのです。

しかし時がたつにつれ、環境の変化等で少しずつ海が汚れてきました。

もちろん現在の海と比べると、その時代の海は、はるかに美しいままなのですが海が持つ波動が低くなってきてしまい、私達はそこには住めなくなってきました。

そして私達は、海の神殿をマーピープルに任せて、さらに高い次元に上がって行きました。

その後、マーピープルが私達に変わってアトランティス文明をつくっていったのです。」

「あなた方が、この地上を離れなければならなかった原因は海の汚れという事だったのですか」

「そうです、実は私達を生み出してくれた「水のドラゴン」という存在がいて、彼が海のエネルギーを保持してくれていたのです。

地球の海に生きる多くの生命達を生み出してくれたのも「水のドラゴン」です。

その「水のドラゴン」が私達の前からいなくなってしまったのです。

もしかしたら、どこかに幽閉されているかもしれません。

「水のドラゴン」がいなくなってしまうってから、乙姫族もマーメイド達も、どんどん力を失っていきました。

そして、海のエネルギーも低下してしまい、海に生きる生命達のカも弱ってしまいました。

もう一度、乙姫族と海の生命力を高めるために、あなた方の力で、「水のドラゴン」を救い出してはいただけませんか。」

## PART2 乙姫族を生み出した「水のドラゴン」の救出

私達は乙姫様の願いをかなえるために、フェニックス号にのって「水のドラゴン」を探しに行く事にしました。

私達は、旅立つ前に乙姫族に集まってもらいました。

「水のドラゴン」を探すにあたって、彼女達を癒してパワーを高める事で、彼女達と共鳴するエネルギーを探し出すためです。

私達は、4大エレメントシェンロンや光のシェンロン達を呼び出し、乙姫族に光を送ります。

乙姫様に光が満ちてくると、背中にあるドラゴンの翼が光輝いてきます。

乙姫様は、「水のドラゴン」から生み出されているために、美しい女性のように見えてもドラゴン族の一員なのかもしれません。

そして、「水のドラゴン」の力を使ってたくさんの乙姫族を作り出していったようです。

フェニックス号が、乙姫様と類似しているエネルギーパターンを探し出しました。

やはり乙姫様のエネルギーと共鳴しているようです。

私達のフェニックス号は、その場所へと急いで向かいます。

すると、特別な仕組みで囲まれている空間の中で、「水のドラゴン」は丸い球の中に封印されています。

私達が、その近くによると、丸い球には封印文字が浮かび上がり、「水のドラゴン」が動けな

いように、ドラゴンの力を抑えています。

その時、私達の前に、仏教の彫像で見るような阿修羅の姿をした存在が現れました。

阿修羅は、世の中の秩序を守り、乱暴を働く人や正義を乱す人達を捕まえる役目を持っています。

しかし、この優しそうな「水のドラゴン」が、乱暴な行為を働くとも思えないので、私達は、阿修羅に「水のドラゴン」を封印した理由を尋ねました。

「阿修羅よ、あなたとお会いするのは初めてかもしれませんが、この「水のドラゴン」を封印している理由を教えてくださいませんか。」

「あなた方は TAKESHI さん達のグループですね、私は初めてお目にかかりますが、皆さんの事はいつも話に聞いております。

実はこのドラゴンは、自分達の海の領域を出て、私達阿修羅族の領域に無断で入り込み、阿修羅族が大切にしていた光のオーブを取ろうとしたのです。

そのために、私達は「水のドラゴン」を捕まえて封印しました。」

「なるほど、阿修羅族が行った事は理解できました。

しかし、この「水のドラゴン」は、なぜ阿修羅族のオーブを取ろうとしたのですか。」

その時、阿修羅族を統治するグレート・ブッダが現れてきました。

「TAKESHI さん、この「水のドラゴン」は、海のオーブと阿修羅のオーブを一つにする事で、2つの種族の争いを治め、仲良くさせようとしていたのですが、事前の話し合いもなかったために、阿修羅族に囚われてしまったのです。

このドラゴンは、本当に純粋で美しい心を持っています。

私達も、そろそろ解放してあげたいのですが、阿修羅族は、またオーブに手を出されるのではないかと用心しているのです。

阿修羅族は、私達の仏の世界の大切な門番であり守護神なのです。

仏族が大切にしているオーブは彼等が守護しているので、「水のドラゴン」の解放には、彼らの同意が必要です。」

私も「水のドラゴン」を早く解放して乙姫族の元に戻してあげたいのですが、どうも阿修羅族との間に深い問題があるようです。



### PART3 「水のドラゴン」の真意

この宇宙を創造する創造主エンソフもこの場所にやってきました。  
創造主エンソフが私達に話があるようです。

「阿修羅族や仏族は、この地球のみならず、叡智ある人々が住む星に降り立って、人々を導く事が役目です。

あなたもよくご存じのように、グレート・ブッダのもとで大切な仕事をしています。  
彼らは、目的や使命に応じていくつもの種族を作りました。

その中の一つに森羅族と呼ばれる種族がいます。

森羅族は、阿修羅族や仏族のもとで、人間がより良い方向に成長していく事を手助けします。  
彼等は、人間が大切にしている真実や正義などを見守り、人間としての素晴らしい資質に目覚めさせるために活躍しているのです。

私達の計画では、水の世界を守り癒しのエネルギーを備えた乙姫族と地球の人類達を導き守護する森羅族の融合を図りたいと思っていました。

しかしながら、2つの種族とも、さまざまな問題を抱えて非常に困窮していました。  
文明間の争いや自然環境の悪化などもそうですが、種族の内部で種族の存続にかかわる重要な問題も起こり始めていました。

私達創造主は、そのような状況を考えて、2つの種族を融合し新たな種族を生み出そうと考えていたのです。

そうする事で、2つの種族も生命力を復活させていけるのではないかと考え、この「水のドラゴン」に2つの種族の融合のために働くように命令したのです。」

「偉大なる創造主エンソフよ、それでは、「水のドラゴン」は、創造主達の意志に基づいて行動しようとしたのですか？」

「そうです。

「水のドラゴン」は、これからの時代、文明間の争いが激しくなり、やがて地球を巻き込んだ争いが起こるのではないかと懸念していました。

そのために、「水のドラゴン」は、2つの種族を救いたいという私の意図のもとに動いたので

すが、思いが伝わらず幽閉されてしまいました。

このドラゴンは、とても純粹で優しいドラゴンなので、私の計画とはいえ、彼を傷つけてしまった事に、私も深い悲しみを覚えています。」

私は、「水のドラゴン」を見ます。

「水のドラゴン」は、首をうなだれたまま、ただ眼を閉じて時間の流れを受け止めているようです。

「わかりました。

阿修羅族よ、創造主エンソフの言葉をお聞きになられて「水のドラゴン」の事が少しは理解していただけたと思うのですが、彼の事を解放してあげていただけませんか。」

阿修羅は深くうなずくと、彼らの種族の中で話をするために、この場を立ち去りました。

#### PART4 森羅族の苦しみと復活

「それでは、グレート・ブッダよ、私達に仏達の種族である森羅族を紹介してください。」と私がお願いすると、幾体かのドラゴンと人の姿が現れてきます。

しかし驚いた事に、現れたドラゴン達は、ほとんどのドラゴン達が傷ついています。

中には干からびて皮だけのようになったドラゴン達もいます。

そして仏族のマスター達も力を失って元気さがまったく感じられません。

私は、この悲惨な状態をみて、いったい何が起こったのか尋ねると、そのリーダーの一人が弱弱しく答えます。

「私達は、森羅族と呼ばれています。

常に地球の生命達や森羅万象とともにあり、この地球を見守ってきました。

そして必要に応じて、仏の姿を取り、この地球に生きる人々を導いてきましたが、膨大なネガティブなエネルギーにより、私達がこの地球に作ったシールドも破られ、私達の仲間も傷つけられてしまいました。

そして地球に生きる森羅万象の生命達にも、その被害は及んでしまいました。

人々は、自分の本質である正義や慈悲の心を忘れ、自分の思いのままにこの地球を支配できると考え、無謀な行為を繰り返しているのです。

人々だけでなく多くの動物や植物達も傷つけられ、地球は彼らの悲鳴でいっぱいです。」

別のマスターが、私達に頭を下げながら話を続けます。

「私達は、自分達のパワーも使い果たし力が尽きてきました。

どうか、私達がパワーを取り戻す事ができるように力を与えてください。

私達は、あなたがここに来る事を心から待ち望んでいました。

私達の種族とドラゴン達に愛の光を注いでください。

私達は、皆さんのように、宇宙の星々を旅し、人々に勇気とパワーを与える活動を行いたいのです。

そして、多くの人々に慈悲の心を教えていきたいのです。

私達は、常に森羅万象と共にあります。

私達を救ってください。」

森羅族の人々は傷ついた体で、一生懸命訴えてきます。

たとえ体は傷ついていても、彼らのスピリットは、まるで宝石のようにきらめいています。

私は、4大エレメントのシェンロンや光、虹、変容のシェンロン、愛の光の天使達も呼び彼らに光を送っていきます。

ハリケーンのような大きな渦巻きが巻き上がり、巨大な光と風が森羅族の人々とドラゴンを包みます。

森羅族のシェンロン達もマスター達もどんどん元気になっていきます。

ハリケーンのような光の渦巻きが消えると、そこには青銅色をした、立派なドラゴン達が数体立っています。

先ほどのマスター達が歓喜の声を上げます。

「本当にありがとうございます。私達の力がどんどん戻ってきます。

私達は、また昔のようにドラゴン達とともに、空や大地を駆け巡り、多くの人々のお役にたてるようになれる。」

私は元気になったマスターとドラゴン達に、「神聖なる愛の結晶」を渡していきます。

愛の結晶をハートに入れたマスター達は、さらに輝きを増してきました。

## PART5 乙姫族と森羅族の融合

そこに先ほどの阿修羅が、族長と共に戻ってきました。

「偉大なる創造主様、そしてブッタ様、皆様のご意向をうかがい、私共は「水のドラゴン」を解放する事にいたしました。

どうか、「水のドラゴン」の事をよろしくお願いします。」

族長は、「水のドラゴン」の封印を解くために準備を始めました。

創造主エンソフがその様子を見ながら、私にささやきます。

「「水のドラゴン」と森羅族のドラゴンが一つになる事で、想像もできないほどの美しい清らかな光がドラゴンの中に生まれます。

その光は、人間のネガティブな感情を癒します。

そして他人に投影していた自分の感情を自分自身の事としてとらえる事ができるようになるので、自分自身を深く反省する事が起こります。

他人に自分の感情のはけ口を求めて暴力的になる事もなくなるでしょう。

両方のドラゴンの長所が組みあわされてより素晴らしいものとなり、新たな種族の大切な光となる事でしょう。」

阿修羅族が「水のドラゴン」を開放すると、ドラゴンを包んでいた球体がはじけ飛び、「水のドラゴン」が出てきました。

私達は、疲れ切ってうなだれている「水のドラゴン」を励まし、そこに待機していた高次のシェンロン達が「水のドラゴン」に光を送っていきます。

「水のドラゴン」がようやく元気を取り戻したようです。

顔を上げうれしそうに乙姫達を見えています。

「水のドラゴン」からも乙姫様からも、ダイヤモンドのような涙がこぼれ落ちていきます。

私は、「水のドラゴン」のハートに「神聖なる愛の結晶」を入れてあげました。

すると「水のドラゴン」は、大きく羽を広げ、体を輝かせると共に、水の滴を回り一面に弾き飛ばします。

乙姫族が大きな歓声を浴びてその滴を浴びています。

私達は、これから乙姫族と森羅族の融合の仕事をしなければなりません。  
私達の前に乙姫族と森羅族の人々が円を描くように手をつないで立ちます。  
そして「水のドラゴン」と森羅族のドラゴンも向かい合って立ちます。

私は高次のシェンロン達の光を、この空間に満たします。  
そして創造主エンソフと愛の源の世界のマザー、そして黄金の女神、ダイヤモンドの女神、  
宇宙の意志を呼び、その光をここに降ろしていきます。

2つの種族が輝くばかりの光に包まれました。  
その中から新たに生まれた4人の乙姫族と4人の森羅族が出てきました。  
彼らは、乙姫族と森羅族の姿を取っているもののその資質や能力はお互いの種族の物を共に  
受け継いでいるようです。  
乙姫族と森羅族の一人一人が手を取り合って、光の中から出てきます。  
まるで結婚式のセレモニーの様です。

そしてその直後に、バリバリと雷が落ちるような大きな音がして巨大なドラゴン達が4体現  
れます。  
あたらしく生まれたドラゴンはとても長いたてがみを持っており、そのたてがみの中に緑豊  
かな樹木や流れる川、動物達や植物達、そして生みの魚達の姿が映し出されます。  
それはまるで大地に生きる動植物や海に生きる魚達などもすべて含んだ地球の森羅万象の現  
れの様なドラゴンです。

地球のすべての生命を包み込み愛に満たすような光があふれだしています。  
あたらしい種族が育つ事で陸に生きるもの、海に生きるものの両方が守護され導かれていく  
事となるでしょう。  
これこそが、本当の意味で「地球の森羅万象を支える種族」の誕生と言えるかもしれません。  
私は、創造主エンソフに、素晴らしい種族が生まれましたねと声をかけます。  
創造主エンソフは喜びで少し涙ぐんでいるようにも見えます。

「私が思ったよりもさらに素晴らしい種族が生まれたようです。  
これから12の神殿が復活し地球が新たなステージに入るとき、レムリアの人や卑弥呼族と  
ともに重要な活躍をする種族となる事でしょう。」

私は新しく生まれた種族達に、神聖なる愛の女神の結晶を差し出して言います。

「皆さんは、この地球を今まで守護してきた素晴らしい種族である乙姫族と森羅族から生まれた愛の種族です。

これからの地球、これからの宇宙の未来は、私達と皆さんが協力して作りあげなければなりません。

どうか、森羅族を父とし、乙姫族を母として、共に仲良く活動してください。」

彼らは、神聖なる愛の結晶を受け取ると、私達の前に丁寧に跪き、私達にお礼の言葉をのべます。

「私達の種族の役割は、海の大切さ、大地の大切さ、生きる喜び、生かされている喜びを分かち合う事です。

そして使命を分かち合う喜び、協力し合う喜び、そして一人ではないという事を皆さんに教えていきます。

人々をこの宇宙の愛と隔てるものは何もありません。

人と比べる必要はなく、なすべき事を行って、宇宙をつなぐ光となるよう、人々を導いていきます。」

その言葉を聞いた乙姫族も森羅族も新たな種族の誕生を喜びあっています。

## 第4章 古代レムリアの12神殿の次元移動

### PART1 古代レムリアの12神殿を訪ねる

このパートは、私がレムリア姉妹と呼んでいる恵理さんと智美さんのアチューメントの時に起こった事です。

私達は、時を超えて古代レムリアを訪ね、古代神殿群と直面する事となりました。

私達は、光の通路を通して過去のレムリアに戻ります。

私達の前に美しい光景が広がります。

青い海から続く白い砂浜、そして砂浜から花が咲き乱れる野原、その後ろには小高い山も見えます。

ここからレムリアの12神殿の内の3つの神殿が見えています。

私達の前に、背の高い男性と女性のマスターが一人ずつ現れ、にこやかにあいさつをしてくれます。

様子から見て、アンドロメダ座でお会いしたレムリアの長老と同じ種族である事は間違いのないようです。

私達も笑顔で応え、このレムリアの神殿について教えてもらえるようお願いしました。

「皆さん、レムリアの神殿へよくいらっしゃいました。

ここは、レムリアの最高位にある12の神殿のうち3つの神殿です。

この神殿は、トライアングル状に配置されておりますが、それはお互いの神殿のエネルギーが共鳴し合ってエネルギーが増強されるための配置を形成しております。

この神殿達によって、地球のエネルギーを高めるだけでなく、宇宙の星々ともつながり、そのエネルギーを地球にもたらず仕組みが作られているのです。」

### PART2 レムリアの火の神殿

私達は、神殿を案内してもらう事にしました。

最初は、すぐ近くの平地の上に立っている火の神殿に入りました。

石を組んで作られた神殿の中では、女性神官達が祈ったり歌ったりしています。

男性神官は、神殿のエネルギーの状況を毎日記録してそのずれを修正する仕事を行っているようです。

神殿の奥には、女性の神官達が中央にある大きな赤いガーネットのような石を囲んで祈っています。

その周りをさらに数名の神官達が取り囲み、赤い石のエネルギーを受け止めているようでした。

ここは、レムリアの火の神殿で、火の神殿がもたらすエネルギーを、他の2つの神殿と共鳴させるために神官たちが祈っています。

火の神殿は、さそり座のアンタ種族星とつながっているようです。

神殿の中は白い感じなのですが、その周りを赤い鎧を着た人達が守っています。

私達のグループの中にも、さそり座の騎士団がいるのですが、この神殿を守っている人達と風貌がそっくりです。

おそらくレムリア時代のさそり座の騎士団なのでしょう。

私達の仲間であるさそり座の騎士団長アンタ種族を呼ぶと、彼はこの時代の仲間達を見て喜んで話をしています。

恐らく、さそり座からこの地球の火の神殿を守るために、守護に来ているのでしょう。

### PART3 レムリアの水の神殿

私達が次にはいった神殿は、浅い海の中に立っている水の神殿です。

神殿のつくりは、同じ石づくりの神殿ですが、火の神殿と比べても、角が丸くなっていて女性的なエネルギーを感じます。

やはりここでも、女性神官達は祈りを行い、男性神官はエネルギーの調整を行っているようです。

神殿の奥には、水色のアクアクオーツのような石が置かれており、女性神官達が祈りを捧げています。



この水の神殿の特徴は、海が持つ浄化の作用を司ります。

水の清らかなエネルギーを地球と星々に届ける役目を持ち、人々の心を癒し、人々がネガティブな気持ちになって戦争へと心が向かないように制御する働きもあります。

そして人々の怒りを鎮めて、宇宙のエネルギーがその人の心とスピリットにスムーズに入っていくようにコントロールしています。

また宇宙の星々に対しても、エネルギーが強すぎる星があれば、他の星がその影響を受けすぎないように、エネルギーが強い星のパワーを抑えバランスを取ります。

また小惑星同士が衝突しないようにエネルギーのバランスを取る働きもします。

この星のエネルギーは、みずがめ座の三ツ星とつながっているようです。

私達がみずがめ座の三ツ星から、封印されていた「水のドラゴン」を助け出した事がありましたが、「水のドラゴン」が封印されたのは、この神殿の崩壊と深く関わっていたようです。

#### PART4 レムリアの大地の神殿

最後に案内されたのは大地の神殿です。

平地の森林の中であって、他の神殿と同じ石造りですが、中の様子は少し異なっているようです。

大地の神殿では、神官達が座って祈るのではなく、踊りながら祈るようです。

10名ほどの神官達が、踊り始めると、そこに大きな風のようにエネルギーが沸き起こります。この神殿の奥には、ルチルクオーツのような水晶が置かれ、その周りでは女性神官達が荘厳な歌を歌っています。

この神殿の働きは、水の神殿のエネルギーと火の神殿のエネルギーを受け取って、神官達の踊りと歌によってさらに強いエネルギーを生みだし、地球と宇宙に対して放射する働きの様です。

この土の神殿のエネルギーは、生命を生みだし育てる働きを持ち、まさに大地のパワーともいべき力です。

そしてその生命を生み出すエネルギーによって、地球にあらゆる種類の生命が誕生する事を助けます。

もし大地の神殿がなければ、地球に新たな生命を生み出す働きに支障が生じてしまいます。そしてすでに生まれている生命達もエネルギーを失い、本来の働きを果たさなくなってしまう事でしょう。

地球と宇宙の生命のバランスをとっているのがこの土の神殿の役割です。

そして、地球の人々が生きる気力を失ってしまうのも、この大地の神殿が機能しないからの様です。

私達が思っている以上に大地の神殿は、地球と強くつながって、私達を支えてくれています。そしてこの土の神殿は、おうし座のアルデバラン星ともつながっています。

この土の神殿に来たとき、恵理さんはその神官の中の一人だった事がわかりました。彼女は自分で、レムリア時代の自分を見つけました。

マスターがその様子を見て答えます。

「そうです。

彼女は、この土の神殿で神官として働くだけでなく、未来の事に関しての情報を受け取る予言の能力を持っていました。

私達は、彼女の予言によって、このレムリアの神殿が崩壊する事、そして遠い未来から、あなた方がレムリアの世界に戻ってきて、私達を助けてくれる事を知っていました。

皆さんが、この世界に降り立ったとき、私達はその時期が来た事を知りました。

本当にありがとうございます。

皆さんを歓迎いたします。」

私達が、心と周りを見渡すと、多くの神官やマスター達が、いつの間にか集まってきています。

皆さんとても優しい波動を持った人達です。

私達は、これからの事を少し話しあってから今の時代に変える事にしました。

## PART5 レムリアの1 2 神殿の危機

そのあとに行われたアチューメントの時、アトランティスの人達なのか、同じレムリアの異

なる種族の人達なのかわかりませんが、この12神殿が攻撃を受け、崩壊する直前に私達は呼び戻されました。

私達は、レムリアの神官達を助けるために、フェニックス号を呼び、この2日ほど前の時間に入ります。

まだ昼間の明るい時に降り立ちましたので、上空からはいくつもの神殿群が見えます。

前回、恵理さんと来たときは、火の神殿、水の神殿、土の神殿の3つ神殿を訪ねましたが、この3つの神殿のほかにもたくさんの神殿が見えます。

おそらく12の神殿を中心として、その神殿を補う神殿や神官達の住まいもあるようです。

私達は、その神殿群の中心にある広場のようなところに降り立ちました。

その時は、まだ神殿群は無事ですが、少し張りつめた空気があります。

私達が降り立つと、数名の神官達が駆け寄ってきます。

神官達にしてみれば、突然変わった格好をした人達が現れたので驚いた様子です。

私達は、この神殿の未来について大切な話があるから、神官のリーダーに会わせてもらうようにお願いしました。

神官達は大きな会議室の様な場所に私達を連れてきてくれました。

そこには、たくさんの神官やマスターが集まって会議をしています。

恐らく、ほかの神殿や街々が敵の攻撃を受けて崩壊していった情報が伝わってきているのでしょう。

このレムリアの最高の位置に当たるレムリアの12神殿をどのようにして守るかという事を話しているようです。

会議のリーダーのような人が、私達が来るのを見ると、すかさず近づいてきました。

「あなた方は、レムリアの神聖なる予言に書かれていた人達なのですか。」

先日土の神殿の神官から連絡があって、皆さんが現れてくださった事を知りました。

皆さん、よく来てくれました。

私達は皆さんを心から待っていたのです。」

私は、「そうです。」と短く答えました。

神官は安心したような顔をしてさらに続けます。

「私達のレムリアは、予想をはるかに超えた強力な力によって攻撃を受けています。」

多くの神殿や神官が犠牲になり、私達もつらい思いをしています。

彼らの攻撃を防ぐ手立ては、私達にはありません。

しかし、私達は自分達の命に代えても、この神殿達を守らなければならないのです。

どうかお力をお貸してください。」

私は、神官を落ち着かせるように手を差し伸べて答えます。

「私達も、このレムリアの神殿がどのようなものであるか、そしてどうなっていくかをよく知っています。

私達のメンバーもかつてこの時代に生き、皆さんの神殿の神官として活躍してきた人達ばかりです。

やがて、私達の時代に、このレムリアの12の神殿も、「天の川銀河の12神殿」も再興させなければならないという使命を私達は持っています。

そのためにも、このレムリアの神殿の叡智や神聖なるパワーと皆さんのスピリットを守る必要があると私は感じています。」

「皆さんが来てくださる事は、予言の書にも書いてありました。

予言の書は、正しかったのですね……」

マスターが涙ぐんでいます。

多くのマスター達が席から立ち上がり、私達の方を見えています。

「皆さん、12の神殿群を守るためにどうすればよいか、私も考えました。

ここに強力な騎士団を配置して、敵を打ち負かす事も可能ですが、それではこのレムリアの争いが激化するばかりですし、もし私達が勝ったら、レムリアだけでなく地球の歴史が大きく変わる事になります。」

マスター達の中には、それでもよいのだが・・という顔をしているマスターもいます。

「私の考えは、この12の神殿群を別の次元に移す事です。

別の次元にこのレムリアの神殿を移す事で、レムリアの叡智も神聖なるパワーも守られます。そして、皆さんのスピリットも守られます。

この場所には、神殿の形は残りますが、それはまるで抜け殻のようなものです。

しかし、敵はその抜け殻を破壊する事で、この12の神殿を征服したと思うかもしれません。

もちろん、この戦いを仕掛けた人達の狙いは、この神殿が持つ叡智やパワーですので、それ

がなくなっている事にすぐ気づくでしょう。

しかし、12の神殿は、この地球から遠く離れた別次元に移りますので、彼らが追って来ようとしてもそれはできません。

皆さんは、今住んでいるレムリアを離れる事になりますが、皆さんの安全と神殿は守られます。」

「とても突拍子のないお考えだが、そのような事ができるのですか？」とマスターは尋ねます。

「実は、私はここに来る前に、すでに崩壊寸前の神殿をいくつか別次元に移しています。これだけすべての神殿を一度に別次元に移す事は困難ですが、不可能ではないでしょう。」

マスターの一人が言います。

「私達はここにいても、やがて敵の手によって殺されてしまいますし、神殿も崩壊してしまいます。

だとすれば、私達は、困難かもしれませんが、TAKESHIさん達に、私達の未来をゆだねたいと思います。」

数名のマスター達が、同意の気持ちを表します。

そしてそれに共鳴するかのように他のマスター達も、同意の気持ちを表しています。

リーダーが、私の前に来ました。

「TAKESHIさん、私達はあなたにすべてをお任せします。

私達はどのようにしたら良いですか。」

「皆さんはすぐに自分達の神殿に戻って、神官だけでなくすべてのメンバーを神殿の中に集めてください。

そして決して神殿の外には出ないようにしてください。

これから、皆さんが経験した事もないような事が起こりますから、常に祈り続けてください。」

私は、以前にも、レムリアの神殿の記憶を持つ人のアチューメントで、レムリア時代に戻り、崩壊寸前の神殿に行って、その神殿を救い出すために、神官ごと別の次元にフェニックス号で運んだ経験があります。

その時は、フェニックス号から神殿を吊り下げるようにして運んだので、フェニックス号の

船長はとても苦労して宇宙船を運転していました。

フェニックス号も大きく揺れながら飛んでいたのですが、愛の光の天使や高次元のシェンロン達のサポートで無事に神殿を別次元に移す事ができたのです。

ただし今回は、その時とは比べ物にならない規模ですので、うまくいくかどうかわかりませんが、きっと創造主やユニバーサルパ種族のマスター達がサポートに入ってくれる事でしょう。

## PART 6 1 2 神殿の次元移動計画

私は、ユニバーサルパ種族と連絡を取り、レムリアの1 2 神殿の次元移動を手伝ってくれる宇宙船とマスター達に来てもらいます。

すると、前回「神聖なる愛の女神」のもとにいった大船団の中でも、とりわけ大きな宇宙船が5隻、レムリアの上空で待機しています。

これだけの大きさの船があれば、どうにかなるでしょう。

私はレムリアの神殿のマスター達に合図を送り、これから始める事を伝えます。

私は今回の計画がうまく行くように、愛の光の天使達と高次元のシェンロン達にも来てもらいサポートをしてくれるようお願いしました。

私もフェニックス号に移動して、船長によろしくお願ひしますと、声をかけます。

「TAKESHI さん、もちろんです。

おそらくこのような流れになるかと思って私の方から皆さんには連絡を取ってあらかじめ準備をしておきましたよ。」

フェニックス号の船長が、それぞれの決められた配置の上に準備している宇宙船に合図を送ります。

すると宇宙船のお腹のところから、地上に向かって光のビームが放射されます。

その光は、各神殿を包み込むと、神殿は小さくなって船の中に収容されていきます。

私は前回みたいに、宇宙船で吊り下げて運ぶとばかり思っていたので驚きです。

フェニックス号の中にも小さくされた神殿が収容されているようです。

「船長すごいですね。  
いつの間にこのようなシステムを作ったのですか。  
これだと安全に神殿を運べますね。」

「もちろんです。  
前はさすがに私も焦ってしまいましたが、今回はかなり楽に行えると思いますよ。」  
宇宙船達は、光の通路を愛の光の天使達と高次元のシェンロン達に守られて進んでいきます。

やがて、光の通路を抜けていくと、光輝く世界が見えてきました。  
宇宙船団は、その世界に降りると、神殿を降ろす準備にかかりますが、少し手間取っている  
ようです。  
各神殿のマスターと船長達がフェニックス号に集まります。  
どうやら、レムリア時代と同じような地形を作り、そこに同じような配置で神殿を降ろして  
もらいたいようです。  
レムリアのマスターが地図を見ながら、一生懸命に説明しています。

私は、新たな次元を作る事や変容させる事が得意なシラサギ族やスティックスが率いる巨人  
族を呼び出します。  
彼らは、シェンロンと共に次元のエネルギーを調整して、その次元に住む人にあわせて適切  
に変えていく事ができます。

さらに天地創造を行う神々達を呼び出します。  
それはギリシア神話の神々である、ゼウスやポセイドン、ハデス達です。  
元気のよいポセイドンとゼウスは、天地創造の仕事ができるので張り切って動いています。  
ハデスは霊界を作るのが役目ですので、今はどのような世界が出来上がるのか静観していま  
す。

私達の見ている前で、新しい世界の様子がどんどん変わっていきます。  
まるで、レムリア時代の地球のような美しい自然も見えてきています。  
神々によって創造されていく新たな地球を見て、レムリアの神官やマスター達も驚いて目を見  
張っています。

私は、レムリアの神官達に言いました。

「ここは新たなレムリアです。

皆さんはここに逃避してきたのではなく、ここに新しいレムリアを生み出してください。

私達は、未来に必ずここに戻ってきます。

その時に、今まで以上に素晴らしいレムリア文明を作り上げて、私達を驚かせてください。

それが、私達と皆さんの約束です。」

レムリアの神官達がうなずいて私の話を聞いています。

「TAKESHI さん、そして皆さん本当にありがとうございました。

私達は、きっと皆さんの期待に応えられるように素晴らしい文明を作りあげて、皆さんが再びここに来てくださる事をお待ちしております。」

私は、後の仕事を、ほかのメンバーにお願いして、現代に戻る事にしました。

彼らと再び未来で会える事を信じて。。。。。



## 第5章 現代によみがえるレムリアの12の神殿

### PART1 現代によみがえるレムリアの12の神殿

私達は、5月23日に行われた星のツアーで、レムリアの神殿を崩壊から守るために次元移動させました。

そして、遠い未来、私達がレムリアの12神殿を再興するときにもたにお会いする事を約束したのです。

私達は、私達の時間では、レムリアの神殿を次元移動させた次の日、彼らの時間では、数万年後の未来となる2015年の5月23日に再び、レムリアの新たな次元を訪ねる事にしました。

私達は、星のツアーが始まると、まず天の川銀河の最高創造主であるアデティーヤ様とお会いして、いくつかのメッセージをいただきます。

アデティーヤ様達も、レムリアの12神殿を次元移動して助けた事に関しては喜んでいらっしゃるようです。

そして、「天の川銀河の12神殿」を再興させる事も大切ですし、地球の中にあるレムリアの神殿だけでなくアガルタ帝国、アトランティス、ムーの神殿を再興し、それらの種族をよみがえらせる事も大切である事を教えていただきました。

「天の川銀河の12神殿」が再興され光を放ち始めた時に、地球でその光を受け止めるシステムを先に作っておかなければ、天の川銀河の12神殿の光を受け止める事ができないという事のようにです。

私達は、フェニックス号で、現代のレムリアの12神殿に入る事にしました。

私達とマスターを乗せて、特別な次元の通路をフェニックス号は進んでいきます。

私達は、レムリアの中央にある神殿に入ると皆さんに挨拶して、レムリアの様子をたずねます。

リーダーの1人が誇らしげに答えてくれました。

「現在のレムリアは、非常に良好です。

基本的な神殿の様子は変わっていませんが、以前よりもさらに進化し素晴らしいものとなっています。」

私は、リーダーに、レムリアの神殿を案内してくれるようお願いしました。  
ここから、恵理さんのリーディングでレムリアの神殿をいくつか回る事にしました。

## PART2 水の神殿、土の神殿、火の神殿

恵理さんが私達をこの1 2神殿へと案内してくれました。

「最初に行くのは、レムリアの水の神殿です。

水の神殿は、地球のレムリアが崩壊して、こちらに移ってきてからだいぶ改良しました。  
石造りの神殿である事には変わりありませんが、私達は水の神殿の中に、水の流れを作る事で、今まで以上に水のパワーが出やすいようにしています。

神殿のつくりも、さらに丸みを帯びた作りとなり、角を作らないように丸く削って作っています。

また丸い柱を使って神殿自体を美しく見せるように工夫してありますし、水も壁づかいに流れ、水のエネルギーをうまく取り込んでいます。

女性神官が祈りをささげています。

クリスタルがあり、クリスタルのまわりにも水を取り入れていて、水のエネルギーをより活性化するために祈っています。」

水の神殿を出て、周りを見渡すと依然と同じように、土の神殿と火の神殿も見えてきます。  
こちらの神殿もきっと改良されている事でしょう。

## PART3 美の神殿 純粋さの神殿 気高さの神殿

私達は、次の神殿のグループを尋ねる事にしました。  
これは他のメンバーが案内してくれます。

「美の神殿はイタリアの遺跡に似ています。

神殿の外には、美しいバラの花を始め、たくさんの花が咲き乱れています

神殿の扉も、美しい装飾があり華麗な作りです。  
神殿の中は、白っぽい大理石の石を使って床や壁が作られています。  
そのすべてに美しい装飾が施され輝いています。  
神官達が綺麗で透き通るような声で歌を歌っています。  
神官達の身のこなしも皆さん優雅で上品です。  
この神殿は、ふたご座とつながっているようです。」

私達はつづいて純粹さの神殿に入ります。  
「この神殿はとても清楚な神殿です。  
余分な柱がなく、外観はがっしりとした石作りです。  
さほど大きくないシンプルな扉があり、その扉にレムリアの文字が刻まれています。  
神官は膝をついて、お祈りをしています。  
ここはカシオペア座とつながっているようです。」

私達は、純粹さの神殿を出ると気高さの神殿に入ります。  
ここは、古代図書館のような立派な作りでおどろかされます。  
床は四角形の大理石が敷き詰められており、まるで伝統がある大学のような感じです。

ここにいる方は、神官の中でも、宇宙の真実に詳しい人達や宇宙の真理を自ら実践する人達がそろっているようです。  
ここはおひつじ座とつながっているようです。

#### PART4 愛の神殿、叡智の神殿、光の神殿

私達は、3つの神殿を回ると次の3つの神殿がある場所へと歩いていきます。  
最初に入った神殿は、愛の神殿です。  
恵理さんが、この神殿の案内をしてくれます。

「愛の神殿は、まわりにお花がさいています。  
神殿は丸みを帯びた外観を持ち、バラのようなお花が壁づかいに添えられている。  
神殿の中に入るとかぐわしい香りがして優しい気持ちに包まれます。

ここでは、だれもが笑顔になってしまうような幸福感に満ちた神殿です。  
ビーナス（金星）や白鳥座のデネブとつながっているようです。」

私達が次に入ったのは、叡智の神殿です。

この神殿は、他の神殿と比べてとても華やかです。

「周りには、輝くばかりの叡智を象徴する金色の装飾が埋め込まれています。  
白の床にも、壁にも金色の装飾品が、埋め込まれています。  
神官の服にも、ネガティブなエネルギーから身を守るために金色の刺繍が施されています。

この神殿はとても重要な役割を果たしています。

この宇宙の叡智や知識を欲しがる存在達は、この叡智が欲しくてたまらないので、叡智の神殿はもっとも狙われやすいようです。

マスター達は、その危険を知っていて、さまざまな守護者を置き、防御のためのバリアを張っています。

この神殿は、宇宙からさまざまな叡智を収集し管理しています。

そしてこの叡智を良い方向に活用してくれる人々に、叡智を分かち合っていました。  
地球の方々にも、さまざまな宇宙の神聖なる叡智を昔は伝えていたのです  
こ神殿とつながりがある場所はアンドロメダ座のミラク星です。」

次は光の神殿です。

「この神殿は、とても明るく輝きに満ちた神殿です。

高い位置に細長い窓があり、そこから十分に太陽の光を取り込む事ができるようになっています。

つるつるとした白い壁は、まるで鏡のように光が反射しあって、神殿の中を明るく保ち、神聖なエネルギーに満たしています。

昔の神殿は、窓がなかったそうですが、新しい神殿は、窓がある事でたくさんの太陽の光に満たされています。」

## PART5 太陽の神殿、月の神殿、風の神殿

今度は、ガイドが智美さんになり、神殿を案内しています。

最初に入ったのは太陽の神殿です

「太陽の神殿は、まぶしい輝きに満ちています。

太陽のエネルギーを受け止めるために、進化した太陽光発電のようなものがあり、昔よりもさらに大きな太陽のエネルギーを取り込む事ができるようになっています。

この神殿の周りには、かわいいお花達がたくさん植えられて楽しそうです。

この神殿のエネルギーは、マリア様のような温かいエネルギーで陰と陽のバランスが整った感じのエネルギーです。

神官達もにこにこ優しく微笑みかけてくれています。」

次は月の神殿に入ります。

「月の神殿は、太陽の神殿に近い場所にあります。

ギリシア神殿のような装飾がとても美しい柱で女性的な曲線で装飾された様子が印象的です。月の神殿は、とても落ち着いており、静けさと安らぎが満ち溢れています。

この神殿の神官は、マーメイドのように見える時もあります。

海のエネルギーとも深くつながり、女性性の癒しや感情の浄化などをおこなっているようです。」

最後に向ったのは、風の神殿です。

「風の神殿は、壁が少なく風が通り抜けるような作りになっています。

自然界のエネルギーと一つになった風のように、おだやかなエネルギーを感じます。

やわらかいおだやかなシンプルな神殿で、神官達が、柔らかに舞い踊りながら祈りを捧げています。

この神殿からは、自然界の精霊やフェアリー達のエネルギーを感じます。

神殿と一体となった庭があり、丸い石を囲んで、神官達が踊っている姿が見えます。

神官達は、精霊に感謝を捧げているようです。」

メンバーの一人一人が、各神殿で自分自身がつながっている感覚を感じていきます。

それぞれの神殿で、自分がそこに存在し祈りを捧げていた事を思い出しているようです。

## PART6 レムリアの祈り

私達は、12の神殿のエネルギーが一つの神殿に統合されている場所に向います。神殿群の中央あたりにあり、12神殿のエネルギーをすべてつなげている大きなクリスタルがあります。

ペガサス座の星とも深くつながり、いくつもの星々に影響を及ぼしているクリスタルのようです。

私達は、そこでレムリアと星々のために祈ります。

私が、メンバーのためにレムリアの長老のメッセージを伝えます。

「偉大なる光のマスター達よ。

あなた方がここにきて下さった事を心から感謝しています。

レムリアのマスター達は、この地球を守るために共に働いていました。

古代の地球はとても美しい宝石のような星でした。

地球には愛と叡智が満ち溢れていたのです。

空を飛ぶ鳥や大地を駆ける動物にも美しさと叡智が満ち溢れていました。

地球は、創造主や神聖なる愛の女神達とクリスタル達を通して深くつながっていました。

この地球にいる事が至福の体験であり、そこに生きる者達はすべてが光輝いていました。

私達は、純粋な愛の者として存在していました。

私達が保ち続けていたのは、愛の叡智です。

みなさん1人1人は、かつてこの神殿の中で生きていました。

大切な役割をもって、レムリアの神殿の中で活躍していたのです。

皆さんのスピリットがレムリアの光と深くつながる事で、皆さんは、さらに覚醒し目覚めてきます。

私達は、深く感謝しています。

私達は最大限のお手伝いをしますので、美しい地球を作ってください。

アガルタ、アトランティス、ムーやシャンバラなどの様々な世界の中で、皆さんは生き抜いてきた特別の魂です。

通常の魂とは、大きく異なる事を理解して下さい。

新しい宇宙、世界が開かれようとしています。

それは、多くの生命を超えて、愛と豊かさで満ち溢れた世界です。

星のツアーに参加したメンバーの1人1人から喜びの涙があふれてきます。

### PART1 クリスタル族の王様からのお願い

創造主達は、いったい何を計画しているのか、まったくわからない事があります。まったく別の事のように思っていたものが、一つにつながってきたり、理由も言わずある星に連れてこられたりすると、それが物語の展開に大きく影響する事もあります。今回もそのようにして話が始まりました。

この日は、ライトボディのアチューメンでしたので、私達はクリスタル・マスターに会うために、ライトボディパレスの1階にあるクリスタルの中に入りました。私達は、そこでメンバーと縁が深いクリスタル・マスターと出会います。

クリスタル・マスターは、守護天使と同じで、その人とクリスタルとの間に深いつながりを作っていく、クリスタルのメッセージなどを伝えてくれます。私達は、クリスタル族の世界の中にあるクリスタルの王様の神殿へと入って行きました。クリスタル族は、この宇宙の中でもセントラル種族と並んでとても次元の高い種族です。

私達の物理的な世界では、クリスタルは鉱物の形をしており、生命を持たないように見えているのですが、そのクリスタルをより高い次元で見ると、生きているマスターのように見える事があります。もちろんマスターとして見えるのは、特別な大きさと品質を持っているクリスタルですが、通常のクリスタルでも、クリスタル・マスター達からのメッセージや様々な情報が込められている事があります。

私達は、クリスタル族の王様のところで、アフリカにとっても大きな闇の渦巻きがあって、その中心に大切なクリスタルとドラゴンがいるから助けてほしいというメッセージをいただきました。

王様の宮殿には、世界中どこでも見える大きなクリスタルがあります。クリスタル族は、宇宙の中にあるクリスタル達を使って様々な世界を見る事ができるのです。



## PART2 アフリカの大地を守るドラゴン

私達が、アフリカの中央部の黒い闇の部分に焦点を当てると、やはりそこには大きな黒い渦があり、その中心になにかがいたる事だけはわかりますが、詳しく見る事はできません。私はその黒い渦巻きに、雨を降らせるかのように光を注ぎます。すると黒い闇は、霧のように薄くなってキラキラと輝きながら蒸発していきました。そして、その中心には、黒くなってしまったクリスタルを一生懸命に抱きかかえているドラゴンの姿があります。

私達は、クリスタル族の王様の宮殿から、その場所へと降りていきました。ドラゴンは、とても苦しそうです。高次元のドラゴン達を呼び、光を送るとドラゴンの顔に安堵感が戻ります。私達が、どうしたのかと尋ねると、ドラゴンは申し訳なさそうに答えます。

「私は、このアフリカの大地と人々を守るドラゴンなのですが、突然黒魔術にかかったようで理性がなくなり、おかしくなっていました。それでもこのクリスタルだけは、奪われないように一生懸命に守っているのですが、私は自分の仕事もできない上に、多くの人々が苦しんでいるのを見ても助ける事ができないのです。周りは、どんどん暗い闇の中に包まれていき、何も見えなくなってしまいました。私は、クリスタルを抱きかかえ、自分の狂気と戦っていました。」

私はすぐに宇宙の魔法使い達と天の川銀河の騎士団を呼び、このドラゴンの体に遺伝子を操作するチップが埋め込まれていないか探させました。やはり数個の遺伝子チップが見つかりました。恐らく、黒のウイングの分身の仕業です。

黒のウイングは、地球や宇宙のエネルギーの浄化を行う重要な存在です。彼はその仕事を行うために、いくつもの分身を作り任せていたのですが、その一つがネガティブなエネルギーに飲み込まれ、自ら支配欲や破壊欲を持つようになりました。

そして、遺伝子操作を行う特殊なコンピューターチップのようなものを作り、それをドラゴンやマスター、魔法使いの体や脳に埋め込んで、その相手を支配し凶悪な行動を起こさせて

いたのです。

私達は、何度も彼の遺伝子チップを埋め込まれて凶暴な行動を起こしている存在と出会い、遺伝子チップをはずして助けてきました。

しかしこのドラゴンは、遺伝子チップをはめられたにも関わらず、自分の仕事を見失わずクリスタルを守り抜いたとは立派です。

「ドラゴンよ、もう心配はありません。

あなたの体に埋め込まれ、あなたをコントロールしていた遺伝子チップははずしましたので、元のドラゴンに戻る事ができます。

しかしあなたは立派です。

遺伝子チップを入れられたらどんなドラゴンでも気が狂って乱暴な働きをするのにあなたはよく耐えましたね。」

私は、ダイヤモンド・シェンロンをチラっと見るとダイヤモンド・シェンロンが気まずそうに顔を伏せます。

この宇宙最高クラスのシェンロンでさえも、遺伝子チップに操られて狂気に走っていたのに、このドラゴンは最後まで、自分の本能でクリスタルを守りぬいたのですから、素晴らしいものです。

「本当にありがとうございます。

今までの苦しさが嘘の様です。

これから今まで通りの働きができそうです、ありがとうございます。」

本当にこのシェンロンはとても素直なシェンロンです。

何度も私達にお礼を言い続けています。

「それでドラゴンよ、あなたの役目はなんですか。

このクリスタルにはどのような役目があるか教えてください。」

「私は、古来からこのアフリカの大地を守ってきました。

この大陸に古くから生きる人々や動物達を見守り守護してきたのです。

このクリスタルは、生命の象徴です。

アフリカに生きる動物や植物、そして人々の生命を守り導きます。

私はこのクリスタルを奪われないようにするのがやっとでしたが、最初は透明で美しく輝いていたのですが、今ではこんなに曇って輝きも失われてしまいました。」

ドラゴンがクリスタルを見て涙ぐんでいます。

「ドラゴンよ、心配しなくても大丈夫ですよ、私が持っている「神聖な愛の女神の結晶」をあなたとクリスタルに入れましょう。これはこの宇宙を創造してくれた女神の愛の結晶ですから、あなたのクリスタルは今まで以上に輝きますよ。」

私が、ドラゴンとクリスタルに愛の結晶を入れると、ドラゴンもクリスタルも大きく輝き始めました。

ドラゴンもとても大きな躍動感が体に満ち溢れてきたようです。

「これはすごいです。  
ドンドン力が湧いてきます。  
そして何物にも負けないパワーと幸福感が満ちてきます。  
私とクリスタルが、愛の女神の光を受けて、この大地に生きる人々や動物達にこの力を分かち合っていきます。  
本当にありがとうございました。  
私達が、闇の中に閉じ込められている間に、このアフリカでは、多くの人々や動物達が傷つけられ苦しんできました。  
私には、彼らの嘆きと苦しみが十分に伝わってきます。  
でもこれからは、私達は皆さんに助けられた分まで、彼らのために一生懸命に働きます。  
皆さん本当にありがとうございます。」

ドラゴンの一途さに私達は何度も心を打たれます。  
私達は高次元のシェンロン達にこのドラゴンに光を送り、今まで以上にパワフルで能力の高いドラゴンにしてもらえるようお願いしました。  
私達は、これでアフリカから去る事にしましたが、この事が大きな意味を秘めている事には、気づいていませんでした。

### PART3 火口の中で眠るドラゴン

その数日後、「シェンロン・ホーリーラブ」のアチューメントが行われたときに、私達は再びアフリカへと導かれました。

私達が祈りの言葉をとなえてすぐ、愛の神龍にすっぽり包まれました。

私達は、愛のシェンロンの体の中でゆったり癒されているようです。

そして先日現れたアフリカのアースシェンロンも出てきました。

アースシェンロンは、硬い黄土色に近いうろこを持つ大地カラーの神龍です。

額にひし形の龍の紋章があります。

私達は、「シェンロン・ホーリーラブ」のアチューメントが終了すると、アフリカのアースシェンロンに導かれて、アフリカの大地へと向かいます。

そこは広々とした草原と岩山が連なる大地です。

恐らく、前回助けたアフリカのドラゴンと同じように助けを求めている存在がいるのかもしれませんが。

私達は、巨大な火口が見えるクレーターの跡のような場所に降り立ちます。

私達が、その場所を守護するマスターを呼ぶと、男女のマスターが現れました。

彼らはとても痩せていて背の高いマスター達ですが、あまり元気がありません。

私達は、彼らと共に火口の中に入っていくと、その地下に真っ赤な朱色のクリスタルを護るように巨大なドラゴン（神龍）が眠っていました。

これだけの大きいドラゴンが眠りについていてという事は、意図的に誰かがこのドラゴンの力を封印したのだと思います。

私達は、宇宙の魔法使いや天の川連合の騎士団を呼び、このドラゴンの中に遺伝子チップが埋め込まれていないか探しました。

遺伝子チップを埋め込む事で、ドラゴンを自由に扱う事ができるようになります。

遺伝子チップによって、多くのドラゴン達が操られ、自分本来の仕事を忘れて凶暴化してしまいました。

しばらくすると後頭部から背骨にそって4、5本チップが埋め込まれている事がわかりました。

このドラゴンは非常に大きな神龍で力も強いので、封じ込めるためには数個の遺伝子チップを埋め込む必要があったようです。

私達は、遺伝子チップを抜き去る事で、このドラゴンの意識を正常なものに戻す事ができます。

その様子を見た2人のマスターは、このドラゴンを目覚めさせてほしいと、私に願いしてきました。

「マスターよ、もちろんです。

このドラゴンは、誰かに遺伝子チップを埋め込まれ、その力を奪われて眠りについていました。

私達はそのチップをドラゴンから抜き去る事で、彼は正常な意識を取り戻し、今までの仕事をおこなえる事になるでしょう。」

マスター達は、信じられない、という顔をして私達を見えています。

アフリカのマスター達は、このドラゴンが眠らされているのは、黒魔術のせいだと考えているようですが、その本性が、機械のチップだった事に驚いているようです。

私達は、このドラゴンのもとに、4大エレメントのシェンロン、光、虹、変容のシェンロンを呼び、光を送ってもらいます。

シェンロン達が、龍の紋章をいくつも描き、眠っているドラゴンに光を送っていきます。

私はさらに、創造主エンソフにもお願いしてより高次のマスター達の光を送ってもらいます。するとドラゴンは、ようやく長い眠りから目覚めてきたようです。

昨日助けた「大地のドラゴン」も喜んでいます。

私は彼に、このドラゴンとの関係を聞きました。

「昨日は助けてくれてありがとうございます。

このドラゴンはアフリカの大地を共に守る大切な仲間です。

私達は3体のドラゴンで、三角形を描くような配置を取り、協力し合ってアフリカの大地と人々、そして多くの動物達を守ってきました。

私は、アフリカに生きる動物達の生命を守り、彼はアフリカの大地の地脈やマグマを守ってきました。

彼は、火の神龍の一族で「焔の神龍」と呼ばれています。

彼が目覚めないとマグマや地脈のコントロールがうまくいかなくなるので、困っていました。」

「そのようなあなた方が、なぜ眠らされたりしたのですか。」と私は尋ねます。

「私達、神龍族は仲間意識がとても強いのです。

神龍の姿をして現れた黒い龍によって、私達は騙されてしまったのです。」

「焔の神龍」は赤い体に青いマダラでたてがみが金色の大きな神龍です。

ようやく、意識が戻ったのか、私達の方に顔を向けて話をはじめました。

「皆さん、ありがとうございます。

私は、いったい今まで何をしていたのですか、何か、霧の中をずっとさまよっていたみたい  
です。

私は力も理性も失い、私の仲間達も見失っていたようです。」

私は「焔の神龍」に、彼に起こっていた事を説明し、その処理は完全に終わった事を告げま  
した。

「私の力が、少しずつ戻ってきたようです。

おかげでこれから地脈とマグマの調整に入れます。

すぐには、大丈夫にはならないかもしれませんが、大災害にならないようエネルギー調整に  
入りましょう。

そのために幾つかの火山の火口に水を送ってほしいのですが、できませんか。」

私はすぐに乙姫様と水の神龍を呼びました。

水の神龍達は、「焔の神龍」とともに空に舞い上がり、いくつかの火山を巡り、火口に水を入  
れ「火のエネルギー」の調整を行っているようです。

乙姫様は素晴らしい清らかなエネルギーでアフリカの大地のエネルギーを清めています。

私は、「焔の神龍」に対して「あなた方は、地球の四大エレメントの神龍ですか。」という質  
問をすると、彼らは、自分達とは別に、地球の四大エレメント神龍のリーダーがいて、「焔の  
神龍」はその下の立場にあたりと説明してくれました。

そして、私達はマスターから大切な事を聞きました。

「焔の神龍」が守っている火口の下には、アガルタ帝国への入り口があります。

3体のドラゴンは、はるか昔から、このアフリカの大地の下に眠る秘密の世界を守っていた

といわれています。

しかし、このドラゴン達が自分達の理性を失ってからというもの、アガルタ帝国は崩壊してしまいました。

私達は、その事も深く悲しんでいます。」

「マスターよ、それではあと一体のドラゴンはどこにいるのですか。」

マスターは弱弱しく首を振り

「彼がどこにいるか、私達もわからないのです。

彼を何とか探し出して、アガルタ帝国への道を開いてもらえませんか。」

私達は再開を約束して、アフリカの地を去る事にしました。

## PART4 アガルタ帝国と大地震

私達は再びアフリカの大地を目指します。

先日、私達はアフリカの「大地のドラゴン」と「焰の神龍」を救出しました。

その時、「焰の神龍」を守っていたマスターから、アフリカには大切なドラゴンが3体いる事、もう1体のドラゴンの行方が分からなくなっているのだが、もしその3体のドラゴンがそろえば、「焰の神龍」が守る火口の下からアガルタ帝国へと向かう道が開く事を教えてくれました。

アガルタ帝国は、昨年行った「地球の古代文明の復興」のシリーズで一度手がけています。

私達が、前回行ったときは、北極に隠された秘密の通路から降りて行ったのですが、その地下に眠っていたのは、非常に近代的な文明を持つ都市の姿でした。

しかし、その都市にはもうすでに人々は住んでおらず、放置された建物や機械類がさびしく佇んでいました。

しかし、アガルタ帝国の叡智を守り続けるかのように、1人のマスターがその中心となる神殿で私達を待っていました。

私達は、アガルタ帝国だけでなく、レムリアやアトランティス、ムーやシャンバラにも入り、それぞれの文明のマスター達を見出し、光の通路を作る事で、各文明の叡智や神聖なる光を復興させて行きました。

今回は、私達はさらに各文明の過去に戻りながら、各文明を支えていた民族や神殿を復興させ、地球と宇宙の新たなつながりを作り出す事を行っていますので、当然アガルタ帝国にもいかなければなりません。

私達は、アガルタ帝国への大切なゲートを開くために、アフリカの大地に降り立ちました。過去の文明はいくつもの別次元を作っていますので、同じアガルタ帝国でも、入るゲートが異なると異なるアガルタの次元へと行く事ができるのです。

今回は、このアフリカの火口の下にあるゲートを使う事により、アガルタ帝国の民族や神殿が残る次元へと入っていく予定です。

私達は、地球のドラゴンの事に詳しいシェンロン・マスターをよびだします。

彼は、地球のシェンロンを統括しているマスターで、私達のアチューメントである「シェンロン・デバインラブ」のエネルギーの源にもなっているマスターです。

私達は、前回彼から「水のドラゴン」が、アフリカの砂漠のどこかに幽閉されているという事を聞いていましたので、その場所に案内してもらう事にしました。

私達は、「水のドラゴン」を助け出すためのサポートとして、ライトニング・ドラゴンを呼びだします。

彼は、地球の自然環境を操作する一番位の高いドラゴンで、地震や火山の噴火、台風や津波などの現象にも深く関わっています。

もちろん、4大エレメントのドラゴン達や地球のドラゴン達に対しても、その活動を束ねていく立場にあるようです。

とても大きくてパワフルなドラゴンです。

私は、この日の夕方に起こった小笠原諸島西方沖の大地震について聞いてみました。

「地球の現在の状況において、この地震は起こるべくして起きました。

私達は、その被害の大きさを考えて、なるべく皆さんに大きな被害が及ばないように、地震の震源を日本の本土から遠く離す事には成功しました。

しかし、この地震は、地球の内部にまだ不要なエネルギーがたくさん残っている事、そして前回、皆さんの手によって放出された地球の不要なエネルギーの一部が、他の星から跳ね返されて戻ってきた事も、私達は確認しています。



そのために、震源地を日本の近海から離す事で、かろうじて大きな被害を防ぐ事はできましたが、危険は過ぎ去ったわけではありませんので、これからも注意してください。もしアガルタ帝国の種族達が無事復興したなら、彼らは地球の地殻やコアを守る種族ですので、これからの地震や火山活動などに対しても、有効に働いてくれるはずです。」

私はその言葉を聞いて少し安心します。

私は、鹿児島市の桜島のすぐ近くで、桜島の火山噴火と共に生きているのです。

最近、桜島だけでなく霧島や口永良部島などにも火山活動が広がっているのは大変気になるところです。

アガルタの種族やレムリアの神官達、日巫女族、乙姫森羅族などの種族達を目覚めさせているのも、鹿児島地区に頻発している火山噴火を抑えるだけでなく、この地球の地殻の安定を願っての事なのです。

私達は、ライトニング・ドラゴンに続いて「大地のドラゴン」、「焰の神龍」も呼び出し、封印された「水のドラゴン」のもとに向います。

## PART5 「水のドラゴン」とアガルタのゲート

私達は、砂漠の中に、まるでシャボン玉のようなものの中で眠りについている「水のドラゴン」を見つけます。

さほど難しい封印がかかっている様子ではありません。

ただ、いつものように、「水のドラゴン」の体の中にも、数個の遺伝子チップが差し込まれ、「水のドラゴン」は完全に気を失っているようです。

私達は、魔法使いや騎士団にお願いして、遺伝子チップをはずしてもらいます。

そして、シェンロン・マスターに、「水のドラゴン」の封印を解いてもらいます。

私はその間に、高次元のシェンロン達を呼びだし、「水のドラゴン」に龍の紋章を描いてもらうと同時に、パワーを与えてもらいます。

「水のドラゴン」が、シェンロン達の光を浴びて少しずつ意識が戻ってきたようです。

アフリカの「大地のドラゴン」も「焔の神龍」も、心配そうに「水のドラゴン」を見つめ、光を送っていたようですが、「水のドラゴン」が目覚めるとうれしそうに舞い踊っています。私達は「水のドラゴン」のもとに駆け寄り、私のハートから「神聖なる愛の結晶」をいれてあげます。

「あなた方が、私を目覚めさせてくれたのですか、ありがとうございます。  
私はなぜ、ここにいるのですか、私はいったいここで何をしていたのですか  
私は、このアフリカに生命の水をもたらすために、仕事をしなければならないのに、私は一体どうなったのでしょうか。」

そこに、昨日私が助けた「大地のドラゴン」が優しく寄り添って、「水のドラゴン」を慰めています。

ドラゴンの瞳から大きな真珠のような涙が零れ落ちます。  
私は「水のドラゴン」、「大地のドラゴン」、そして「焔の神龍」達に、高次元のドラゴン達の光を導きます。  
そして、さらに黄金の女神や神聖なる愛の女神の光を送ります。

私はこのドラゴン達を前にして話しをします。

「偉大なるドラゴン達よ、あなた方が眠るにつく事でアフリカの大地はとても傷ついてしまいました。

しかし、皆さんが再び目覚め、共に活動する事により、アフリカのみならずこの地球そのものがさらに素晴らしい世界へと変わっていく事でしょう。

しかし、その前に、私達はあなた達とともに行くべき事があります。

古代、あなた方を生み出したアガルタへと行き、アガルタの種族と神殿を復興せねばなりません。

あなた方の力で、アガルタへのゲートを開いてください。」

ドラゴン達は、私の言葉を聞くと、3体の光が一つになって、大きな光の通路が生まれます。これがアガルタ帝国へとつながる道なのです。

私達は、その通路の中を進んでいくと、遠くに光が見えます。

私達が通路を抜けると、そこには荒廃したアガルタの世界があります。

### PART1 アガルタの失われた種族

アガルタの世界は、特に大きな自然破壊などが起こったわけではなく、ただ人々が立ち去り、忘れ去られた街、という感じです。

とても寂しく荒涼とした雰囲気があります。

私達は、このアガルタに残っているマスターを呼び出しました。

マスターが現れると、マスターは喜びの言葉を私達に伝えてきます。

「私達は、ここでずっと待っていました。

おそらく遠い未来に、この地球のいくつもの文明を復興させ、そして失われた種族達をよみがえらさえる人が現れるという予言を信じて、待ち続けていたのです。」

私はマスターの言葉に答えます。

「私達は、レムリアやアトランティスにも行ってきました。

そしてレムリアの神殿を破滅から守り、現代に蘇らせましたし神官や巫女達も元気で活動しています。

またアトランティスの乙姫族や森羅族も元気になりました。

もちろん日巫女族も、この世界に戻ってきました。

次はアガルタ帝国とムーの文明を復興させるために、私達はここに来たのです。」

「それはとてもうれしい事です。

それでは、「天の川銀河の12神殿」の復興も手掛けていらっしゃるのもあなた方なのか。」

「天の川銀河の12神殿」の復興はこれからの課題ですが、その復興も私達にゆだねられています。

アガルタの種族は、別次元に移動していると聞いていますが、この世界に彼らに戻す事はできますか。」

「TAKESHI さん、私達もそれを願がっているのですが、そのためには、アガルタの4大ド

ラゴンが必要なのです。

3体はいるのですが、後1体が見つかりません。」

私は、先日シェンロン・マスターと話をしたとき、アガルタのドラゴンが、山の上に立つ廃墟のような神殿の上に幽閉されている事を聞いていましたので、シェンロン・マスターと魔法使いにお願いして、そのシェンロンをここに連れてきてもらうようお願いしました。そして、アガルタのマスターにも、他の3体のドラゴンを呼び出してもらい、アガルタの種族を呼び戻す準備をしてもらいます。

アガルタのマスターは大喜びで、私達を大きな広場のようなアガルタの聖地に連れて行ってくれました。

その広場を取り囲むように、石の柱が数本立っていますが、今では壊れかけて倒れたり傾いたりしています。

マスターはその中央に立つと、呪文のような言葉を唱え始めます。

「偉大なるアガルタよ、偉大なる大地の光よ、  
ここに新たなるアガルタを目覚めさせ、栄光を与えてください。」

すると、空が稲光のように光輝き3体のドラゴンが現れ、空を回旋しています。

するとそこに、光輝くもう一体のドラゴンが、山の方から飛んできました。

シェンロン・マスター達が、きっと助け出してくれたドラゴンなのでしょう。

4体のドラゴンが、その広場の上を、一つの輪のようになって旋回し始めると、まるで竜巻のような風と光が大地から沸き起こります。

そして、その中から光の塔のようなものが生まれてきます。

どうやら、この塔から光や信号が送られ、アガルタの種族達が避難していった世界とつながっているようです。

アガルタのマスターがさらに祈ります。

「偉大なるアガルタよ、偉大なる大地の光よ、  
神聖なるドラゴン達の光が今一つになり  
神聖なる光の塔が生まれました  
ここに、アガルタの次元の扉をつなぎ、

アガルタの民を戻してください。」

しばらくすると、大きな光が広場を包み、アガルタから出て行った人達や動物達が戻ってきました。

皆さん、自分達がアガルタに戻ってこれた事がとてもうれしいようです。

仲間同士で抱き合ったり、肩をたたいたりして喜びを表しています。

私は高次のシェンロンや地球のドラゴン達にお願いして、さらにたくさんのアガルタの種族をこの世界に連れ戻してくれるようお願いしました。

多くのドラゴン達が、この広場から一斉に飛び立ちます。

しばらくすると別の次元に行ったアガルタの人々をシェンロン達が連れてきてくれたようです。

人々だけでなく動物達（牛、馬、象、麒麟など）や子供達も走り回っています。

とても柔らかい風も吹き始めて、気持ちが良い状態になっています。

人々は、久しぶりに会う友達と一緒に、このアガルタへ戻れた事を大変喜んでいるようです。

仲間達で、輪になって座り、早くも歌ったり踊ったりしている人達もいます。

もともとこのアガルタ帝国の人達は、宇宙の叡智ある星からこの地球に降りてきた人達です。そして地球のコアとしっかりとつながり大地を守り、地球の安定を図るために存在しています。

しかし、地球上でいくつもの争いが起こり、文明間の興亡や自然破壊などが起きてしまって、そのエネルギーを支えきれなくなってこのアガルタを出て行ってしまったようです。

## PART2 アガルタの水の神殿、大地の神殿、光の神殿

私は、戻ってきたアガルタ族のリーダーと話をします。

「偉大なるアガルタの皆さん、初めまして。

私達は、宇宙の光のメンバーです。

現在、「天の川銀河の12神殿」を復活させるために、地球の神聖なる神殿を復興させる仕事を行っています。

アガルタに残っている神殿も復興させたいのですがいかがでしょうか。」

リーダーは礼儀正しく感謝の気持ちを体で表しています。

「私は、かつてこの地球にアガルタがあった時代に、ここを治めていた種族の者です。あれからだいぶ時間が過ぎてしまいましたが、このアガルタに戻って来れた事をとてもうれしく思います。

私達は、この地球をとて大切に思っていました。

そしてこの地球に暮らしていたレムリアやアトランティスそしてムーの種族をとて愛していましたが、争いが起きてしまい、いくつかの種族達が滅びたのは実に残念な事です。

皆さんが、このアガルタに来てくださった事を私達は大変歓迎しています。」

「アガルタの皆さん、皆さんがこの場所に戻ってこられた事を私達も大変うれしく思います。達は今、「天の川銀河の12神殿」を復興するために、地球の12神殿を目覚めさせようと考え、働いています

私達に、皆さんが作られたアガルタの神殿の事を教えていただけませんか。」

「そうでしたか、それは素晴らしい事です。

私達もできうる限り皆さんに協力させていただきたいと思っています。

私達は、このアガルタで地球のコアの意識であるガイアと共に地球を守っていたのです。その神殿が復興される事で、この地球もまた素晴らしい安定と発展がもたらされる事でしょう。

私達は、この地球に光を送るために、6つの神殿を持っていました。

水の神殿、大地の神殿、光の神殿は無事なようですが、後の神殿はだいぶ壊れているようです。」

マスターが教えてくれた3つの神殿は、この広場の近くにあり、まだきれいな形をとどめているようです。

私達は、すぐにフェアリーやホビット、そしてオリンポスの神々であるゼウス達を呼び出してその修理にあたってもらいました。

そして、その神殿に新しいホーリークリスタルをフェニックス号から降ろして安置します。

神殿から、美しい光が、広場全体に広がっていくようです。  
広場で集っていた人達も、自分達の役割を思い出したようです。  
その神殿で働いていた人達が、神殿の中に急いで入っていきます。  
きっと神殿を新たな祈りの光で満たす準備をはじめているようです。

### PART3 アガルタの星の神殿、癒しの神殿、叡智の神殿

「それでは、マスター、ほかの神殿にも案内してもらってよいですか。」  
「わかりました、後の神殿は、ここから離れた場所にありますので行きましょう。」  
私達は、これから山の頂にある神殿に向う事になりましたが、私は、あらかじめ神殿に、ホビットと騎士団を派遣して、神殿の修復を行ってもらう事にしました。

私達は、森の神殿を目指して、山道を登っていきます。  
山の山頂近く、険しい道を登って行った先に神殿がありました。  
この神殿は他の神殿と異なり、機械類のようなものが置いてあり、宇宙と地球をつなぐ中継地点のような神殿です。

神殿の屋根には、アンテナらしきものも見えていますので、おそらく宇宙の星々と通信を行っていたようです。  
私達は、このような機器の事に詳しい鳳凰族、マスターA を呼び出し、最新の物に取り換えてくれるようお願いしました。

この神殿で働いていた人達もいるようですが、この機器を扱えるような人も少ないようですので、後で教育を行う必要があるようです。  
ここにもフェニックス号からクリスタルを運び込み、その動力源として「神聖なる愛の結晶」を入れました。

次の神殿は、湖の近くにある神殿です。  
この神殿は、美しい森と湖に囲まれた癒しの神殿ですが、すでに修復が終わっているようで光輝いています。

ここにも、ホーリークリスタルを置いて神殿の光を活性化します。

最後に叡智の神殿にいきました。

近代的な感じの神殿で、図書館のような働きをしていたみたいです。

この神殿には、アガルタの全ての情報と映像があります。

イシス様を呼びだして、ここを宇宙の図書館とつないで、必要な情報を与えてくれるようにお願いしました。

ただ、ここの機器もかなり古いようですので、マスターA に新型の性能のよい機械に変えてもらいました。

まるで最新型のパソコンのようです。

この神殿に来た人達が、この装置を使って宇宙の叡智や地球の事を調べる事が出来ます。

ホビットやコロボックルも手伝いに来て、皆さん楽しく仕事をしています。

このように考えると、アガルタ文明はレムリア文明と異なり、他の星々のマスターや生命体と深く関わっていたようです。

#### PART4 アガルタの神聖なる神殿とドラゴン

私達はこれで6つの神殿を修復したのですが、これらの神殿のほかに、もっと大切な神殿が隠されているような気がします。

「アガルタのマスターよ、これで6つの神殿の修復が終わりましたが、このほかにも神殿はありませんか。

何か、もっとも大切な神殿が残っているような気がするのですが。」

と私は尋ねました。

「そうです。

もう一つの神殿は誰もが入れる神殿ではありません。

アガルタにとっても地球にとっても重要な秘密が隠された神殿ですので、地下深くに隠されています。

それでは、皆さんにもご同行お願いできますか。」



私達は、地下へと向かう秘密の扉を抜けて、まるで階段を何段も降りていくように、地下に入っていました。

やがて、地下の中に大きな空間が現れ、そこに、とても威厳のある神殿の姿が浮かび上がってきました。

私達は、神殿の中心となるホーリークリスタルのもとに行きました。

この神殿のホーリークリスタルの状態は、すこし元気がないようですが、特殊なクリスタルの様なので、このまま使う事にしました。

私は、クリスタルを活性する光の種と「神聖なる愛の結晶」をそのクリスタルに入れました。この場所はアガルタにとっても特別な場所であり、アガルタ帝国に何かあった時のために、隠されていた神殿だそうです。

私達は、このアガルタの神聖なる神殿と地上にある神殿に光をつなげてくれるようお願いして、この神殿群を活性化する事にしました。

高次元のシェンロンである、4大エレメントシェンロン、光、虹、変容のシェンロン達を呼び出して光を送ります。

各神殿の光が美しく輝き、神殿同士が光でつながっていきます。

私達はさらにこの宇宙の創造主達にお願いして光を送ってもらいます。

するとそこに、動きを封じられた巨大なドラゴンの姿が浮かび上がります。

アガルタの中心となるドラゴンが、どこかに閉じ込められているようです。

私は、シェンロン・マスターに来てもらい、このドラゴンを目覚めさせるために、アガルタの4体のドラゴンとこの巨大なドラゴンを光でつないでもらいます。

どうやら、この神殿のさらに下の次元に隠されているようです。

宇宙の魔法使い達にも来てもらい、ドラゴンの封印を解き放ちます。

そうすると大きな地鳴りのような音がして、私達が立っている地面が大きく揺れます。

すると、そこから大きな体をしたドラゴンが現れてきました。

「私は、このアガルタの神殿と種族を守り続けてきたドラゴンです。

アガルタの人達がこの場所を去り、神殿も機能しなくなった事で、私は長い間この神殿の地下で眠り続けてきました。

私は、このアガルタだけでなく地球のコアと深い関係を持ち、地球のコアのエネルギーをさまざまな文明につなげる役目をしていました。

私が目覚めた、という事は、アガルタの人々が戻り、再び神殿に灯がともり、私達が共に活躍する時が来たという事でしょうか。」

私は、眠りから覚めたドラゴンを見上げて言います。

「アガルタのドラゴンよ、もちろんです。

地球は、今新たに生まれ変わろうとしていますので、あなたの力が必要です。

アガルタの神殿もレムリアの神殿も復興しました。

ほかの文明の神殿もやがて復興していく事でしょう。」

アガルタのマスターも立ち上がり、ドラゴンの意識と自分の意識を深くつなげています。

アガルタのドラゴンも、マスターの意識に感応するように光り輝いています。

「ありがとうございます。

これで私達も十分に働けそうです」

マスターとドラゴンの声が、私の心の中に同時に響いてきます。

ドラゴンは、うれしそうにアガルタの人々を見えています。

「私はこれからも、このアガルタの地下で皆さんを支えます。

そして地球のエネルギーと皆さんのエネルギーが一つになり、さらに大きな宇宙のエネルギーとつながっていく事を見守っています。

私から、皆さんにお願いがあるのですが、私が今アガルタの様子を見渡したところ、癒しの神殿のそばに、新しいマーメイドの種族が生まれているようですが、それはあなたが行ったのですか。

もし、あなたにそのような力がおありなら、ぜひ新たなアガルタの種族を作っていただきたいのですが、お願いできませんか。」

「偉大なるドラゴンよ、もちろんです。

このアガルタを支え、地球が新しく生まれ変わるために働いてくれる種族を作りましょう。」

## PART5 アガルタの新たな種族

私達は、最初の広場に戻り、新たな種族を生み出す事にしました。

広場は、6つの神殿と地下の神聖な神殿が活性化した事で、光に満ちあふれ、今までよりもさらに次元が上がっているような感じでした。

私は、再度ドラゴン達にお願いして、別次元にいまだ残っているアガルタの種族をこの場所に連れ戻してもらうようお願いしました。

アガルタのドラゴン達や高次元のシェンロン達が飛び立ちます。

スピリチュアルなレベルでは、自分の存在している次元と同じような次元でないと人々は行き来できないので、アガルタの次元がもとに戻る事で、さらに高い次元にいるアガルタの種族が戻ってこれるようになっているのです。

いくつかのアガルタの種族のグループが戻ってきました。

今度は、先ほど戻ってきたグループよりも、しっかりとした感じの人達です。

おそらく、各神殿を運営する神官や巫女、専門的な工学技術などを持った人達も含まれているようです。

私達は、このアガルタの神殿が復興した事を伝え、さらにこのアガルタを進化させるために、新たな種族を生み出す事を伝えました。

私は各種族の代表に集ってもらい相談したところ、アガルタの種族の代表達は、自分達はもうすでに古い種族だからという事で、1番若い天文学に詳しいリーダーを1人だけ選出しました。

私は、このアガルタの新しい種族を生み出すために、日巫女と鳳凰族のマスターそして神聖なる愛の女神のサポートを受ける事にしました。

アガルタの若きリーダー、日巫女、そして鳳凰族のマスター達が輪になり、神聖なる愛の女神がそれを囲むように光を送っています。

私達が、創造主達の光を次々にこの輪の中に呼び込むと、大きな光のドームが生まれました。

やがて、新たなアガルタの種族が生まれてきます。

まるで、結婚式のように男性と女性が手をつなぎ、光のドームから歩み出てきます。

おそらく10組くらいのカップルが生まれ出たようです。  
アガルタの種族達が花を散らすように、祝福を行っています。

私達は、その光景をほほえましく見ながら、創造主エンソフにこの様子を報告します。  
創造主エンソフも満足げにアガルタの人達を見つめ、喜んでくれています。

## 宇宙で活躍する神々や創造主の段階

宇宙で活躍する神々や創造主の段階

青字は天使

地球	マザーガイア、 天照大御神などの世界中で活躍する神々（スターピープル） サナートクマラ、サナンダなどのマスター 人間を守る守護天使
太陽系	アメンラー、ゼウス、ポセイドンなどの創造神 大天使
天の川銀河の小創造主	天の川銀河の各星座を担当する小創造主 ペテルギウス、北極星、南十字星、レグルス星、スピカ星等 天の川銀河の大天使
天の川銀河を統治する中創造主	アディテーヤ 仏陀 アリターリア
局部銀河を統治する中創造主	イエス アールスター アリアドーネ 宇宙の魔法使い エルシーダ シバ オニキス ユニバーサル・エンジェル
	グレートイエス グレートマリア
物理世界を創造する創造主	ブラフマン 界王 グレート・スター

ユニバース（単一宇宙） の創造主	グレート・ユニバース グレート・キング グレートマザー グレートエンジェル
特殊な創造主	ゴールドルシファー 宇宙の大地のマスター ホーリーエンジェル
マルチバースの創造主	セントラル・サン&ムーン ゴッデス・オリジン ゴッデス・ユニティ
愛の源の世界	愛の源の世界のマザー エンソフ アメンラー ウイング
高次の物理世界の創造 主	セントラルレース セントラルイエス&マリア クリスタルレース デバインマスター
	永遠なる愛の女神 黄金の女神 宇宙の意志 ダイヤモンドの女神
12 神殿に関わる創造主	鳳凰族の創造主 ソフィア族の創造主
	無の創造主 祝福の創造主 太陽種族の創造主
物理世界の系列を表す	輝きの創造主

創造主	光と闇の統合の創造主 至高なる愛の創造主 永遠なる時の創造主
-----	--------------------------------------

★物理世界を持つ宇宙

○第1レベル 天の川銀河の中の創造主

階層としては一番下の階層の創造主です。主に星々や星座の働きを保ち、星に存在する生命達を生みだします。

彼等は星座の創造主とも呼ばれています。

その上には、天の川銀河全体の管理と創造を行う創造主もいます。

○第2レベル 局部銀河の創造主

私達にとって観測可能な宇宙（ユニバース）の中でも、天の川銀河やアンドロメダ銀河を含む局部銀河が一つの宇宙の単位となっています。

この局部銀河を治める最高の創造主は、私達が「界王」呼んでいる創造主で彼のもとに多くの創造主が役割を分担して存在しています。

私は、局部銀河の運営にたずさわる創造主を「グレートゴッデス」と呼んでいます。

特にグレート・イエスやグレート・マリアは地球の事をとても大切にしてくれています。

○第3レベル 観測可能なユニバースを統治する創造主

物理的な世界を持つ宇宙（ユニバース）を直接統治する創造主達です。

主に第4レベルの創造主に対応する創造主達がいて、第4レベルの創造主の指示のもとに単一宇宙であるユニバースを運営しています。

○第4レベル 多次元宇宙を統治する創造主

観測可能な宇宙だけでなくパラレルワールドも含む多次元宇宙を統治する創造主達の世界です。

そのリーダーは、エンソフと呼ばれる創造主です。彼のもとに、星々を創造する創造主、人々の運命を司る創造主、宇宙の安定を保つ創造主、ドラゴンや精霊を生み育てる創造主、4大エレメントを駆使して宇宙を創造する源のエネルギーを作る創造主、叡智ある存在が適正に育っているか調べる創造主などが存在して、多次元宇宙の創造と運営を行っています。

## ★スピリチュアルな宇宙

### ○第5レベル 物理的な宇宙を創造し運営する創造主

このレベルの創造主からは、たくさんの階層と役目を持った創造主が存在します。

物理的な宇宙を創造し運営する役目を持ち、私達の物理世界にも関われる創造主達です。

第1評議会の中心的な創造主達になります。

リーダーは、「源の創造主」「光彩の創造主」で宇宙のスーパーコンピュータを管理する創造主なども含まれます。

### ○第6レベル 物理的な宇宙を管理しスピリチュアルな宇宙を創造する創造主

主に第2評議会、第3評議会の創造主達で、上位の評議会の創造主の指示のもとにスピリチュアルなレベルでも宇宙を創造していきます。

彼等は、上位の評議会の決定を自分達の評議会で議論し、どのような方法で宇宙の創造と運営を実行するか決めて行動します。

### ○第7レベル スピリチュアルな宇宙を創造する創造主

主に第4評議会の創造主で、物理的な宇宙の元となるスピリチュアルな宇宙を作ります。

この宇宙の原型を基に、第3評議会と第2評議会の創造主やスターピープル達がスピリチュアルな宇宙の細かい創造を行います。

彼等は、マルチな能力を持つ創造主で1人1人が独立して、自由に宇宙の創造を行う権利が与えられています。

### ○第8レベル 創造された宇宙の管理を行う創造主



第5評議会以上の創造主達は、宇宙の創造は行いませんが、彼等よりも下の評議会の創造主が作った宇宙が適切に運営されているかどうかの検査を行っています。

非常に高い能力を持っている事はもちろんですが、どの次元にも自由に入る事ができ、多くの宇宙を見守っている創造主です。

### ○第9レベル いくつもの宇宙を管理する創造主

第9評議会以上の創造主達は、私達の宇宙以外にもいくつもの宇宙に関わり創造や管理を行うようになります。